昭和44年12月23日第3種郵便物認可昭和45年7月1日発行毎月1回1日発行

日本バドミントン協会

バドミントン界

THE BADMINTON WORLD

no.10
1970
6・7月合併号



YONEYAMA RACKET

スマッシュ!



NO.8000

Alumina Hy-Power

アルミナハイパワー

アルミフレームに　アルミシャフト採用!!

軽い ——— アルミニウム合金の比重は約2.7で、銅の8.9や鉄の7.9に比べて⅓に過ぎず、非常に軽くリストの弱いプレーヤーに向きます。

強い ——— 特殊製法によるアルミニウム合金をラケットフレームに用い、鋼鉄に匹敵する強さが発揮されました。

弾む ——— 木製、スチール製に比較して柔軟性、反撥力が抜群。打球の初速が早く、更に加速が増加してすばらしいスマッシュが打てます。

YONEYAMA

株式会社 **ヨネヤマラケット**

全国運動具専門店でヨネヤマのラケットと御指定下さい。

「バドミントン界」《第10号》

《競　技　会》

◆特集・社会人選手権総まくり……2
▽選手本意の開会式（第一日から）……相馬清一
▽ベテランの活躍に敬服（第二日から）……松本弘充
▽選手寿命の伸びを願う（最終日から）……高木紀子
▽観戦記・会期は再検討の要……岡村英男
▽相沢はなぜ負けた……小林範夫
▽ファン不在はごめんだ……後藤忠弘
▽ヘアピン　▽社会人ランキング

◆関東高校選手権……25
▽決勝評……中村一郎　▽総評……里見光徳　▽ヘアピン

《写　真　グ　ラ　フ》

◆社会人選手権から
（撮影＝山田真市、MGスタジオ、山本洋彦）……17

《企画とよみもの》

◆中学生対策を考える……8
▽手痛い新卒指導者の不足……池田昌道
▽私の指導法・連載第1回……渡辺真規子
▽中学生の対外基準について

◆ニューファッションの夢……11
▽女子ウエアの新傾向をさぐる（選手座談会）
▽試作デザイン集（佐藤茂雄とそのグループ作品）

◆心理学的にみたバドミントン選手の性格と試合態度……21

◆読者の広場……22

◆北から南から（各地で第一線選手がコーチにひと役）……26

◆沖縄の現状と問題点……24
比嘉鉦由

《連　載》

◆百万人のバドミントン上達法……14
▽幼少年編・ありがとう、いいスポーツです……伊藤基記
▽中高校編・フットワークについて……遠井稔男
▽上級編・サービスの重要性……毛利清志

◆理事長対談〈第9回〉
日本軟式庭球連盟理事長・木田英夫氏……1

ルール100問……30　告知板……28
協会公示……31　表紙……36
次号予告……36　編集後記……36
お知らせ……裏帯　RECORD……32

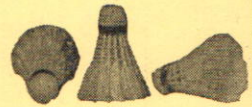
表紙／撮影・松井亮磨／デザイン・小浜正道
カット／おおば比呂司・秦浩・芦間登美子

水鳥 検定合格球

ファストゴールド

ファストシルバー





ファスト印シャトル
コック製造発売元 有限会社 ジャワ商会

山形市六日町7-28
電話 02362 (2) 3994

理事長対談…⑨



日本軟式庭球連盟
理事長

木田英夫氏

ききて……川端昇市

木田　昨年のユ杯で一万人も観客がはいったと聞いたとき、実はびっくりしたんですよ。バドミントンを見直しました。いまだに各競技団体の間の〝語りぐさ〟ですからね。

川端　お認めいただいて光栄なことです。しかし、その後はどうも〝ホームラン〟が出なくて。いま、研究しているんですが、なにしろ貧乏な競技団体ですから、ひと口に普及発展をはかるといっても、いろいろ、カベばかり多くて…。

木田　バドミントンが、あれだけの観客を集めたのは、競技自体の面白さ、魅力だと思うんです。つまり、ラリーの応しゅうがあるということ。バレーボールの人気も、ひとつにはその辺があるんじゃないか。この点テニスは、あまりにスピード化しすぎて、味がなくなっているといわれています。

川端　軟庭さんは、歴史も古いし、競技人口もバドミントンとはくらべものにならないくらい多いから、そんなことはないでしょう。

木田　硬式テニスにくらべれば、それはそうだが……競技人口も、日本のスポーツでは第四位ぐらいなはずです。しかし、その割に報道されることが少ない。新聞やテレビに取り上げられるかどうかで、普及や選手の励みがぐーんとちがいますからね。「バドミントン界」は、これまでの各競技団体の機関誌のカラを破った、実にすばらしいものです。どうやって作っているんですか。

〝普及発展〟に財政確立が先決

組織の充実、指導者の養成も

川端　これは新聞記者諸氏のご協力で、企画、取材、編集あらゆる面でお世話になっています。聞くところではサッカー、ハンドボール、ボートなどはやはりマスコミの人が中心にやっているそうですね。

しかし財政的な問題もあり百パーセント満足するものは、なかなかむずかしい。写真が少なくて、字が多いと、時々、苦情も来ます。

木田　技術指導の理論なんかは、読んで頭でおぼえるより、絵（図）や写真で見るのが早わかりですからね。ただ最近の青少年は、大学生もマンガばかりで、文字を読むのが苦痛という性質は否定できませんね。

川端　軟庭は、競技を米国に輸出中だとか。

木田　昨春、在日米軍基地のアメリカン・スクールに手ほどきしたのがきっかけで、かなり広まり、体育の授業の中に取り入れています。今度、米本国から女子の体育教師が十四人ほど来て勉強していきますし、秋には在日基地の大会をやる計画を立てています。

川端　たいしたものですね。ふつうの競技会での観客の動員なんかは、どうやっているんですか。

木田　支部、学校に割り当てます。よいプレーを見るのが一番の勉強になるんですからね。タダというのはいけない。

川端　私どもは協会としての歴史が浅いから、日本協会ばかりでなく、地方協会もまだ充実していない。さいわいユ杯が世界タイトルをとりましたが、男子の制覇を合わせ、国際レベルを維持していくには、全国組織の拡充が先決です。

木田　その通りです。軟庭の競技人口が多いのも、組織がしっかりしているからです。それと指導理念の統一、指導者の養成ですね。

川端　ただ、それには財政を確立しなければいけない。いくらアイデアがあっても、事業をやるにはお金がいる。

木田　どうしたら、資金を集められるか、役員がみんながチエを出し合えば、不可能ではない。要は努力です。

◆特◇
◇集◆

総まくり・第13回全日本社会人選手権

（5月3日～5日、千葉市県営体育館、前号速報）



行進廃止、挨拶は簡略化

選手本位の開会式に好感

第1日から

日本協会競技委員長
相場清一

日本協会主催年次大会のトップを切るイベントが、この社会人選手権。

今回は開会式で選手・役員の入場行進をやめ、本部席前に都道府県名を書いたプラカードを立て、整列する方式をとった。

来賓祝辞、歓迎のことばなどいつも長々と続く挨拶も、地元協会長の挨拶だけにとどめた。開式から閉式通告まで、十分間余。選手の本分はプレーにあるはず。その意味で〝疲労軽減〟を考えたのは良かった。

選手たちにも好評だったようだ。今後、各種大会を通じて、一つの参考になると思う。

ただ、残念なのは、毎度のことながら、プラカードだけの参加が散見した点である。やはり〝全日本選手権〟の出場者（特に社会人は監督会議がないので）は、全員、開会式には参加してもらいたい。

それは、参加することが、せっかく努力して大会を開催する地元に対して、また、バドミントン普及発展のための、選手としての礼儀であり、義務ではないか、と思うからである。

参加選手が多いため、初日の試合は8面のコートで189。のべ12時間に及んだ。規模が大きくなるのは喜ばしいが、反面、競技の充実性も考えなければならない。全体のワクを制限するとかしなければ開催地は大変である。

しかし、また、新卒者が参加できやすいように、開催期日を五月下旬とか六月上旬に持ってくることも検討していいように感じた。

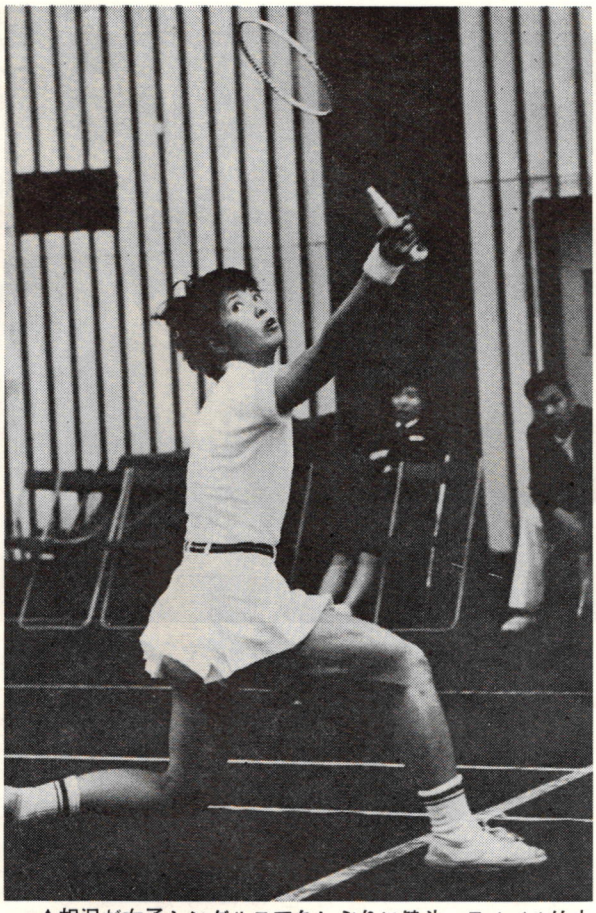
初日とあって、試合内容で特筆するものはなく、混合で決勝に進出した堺・天野組のうまさが目立ったていど。

残念ながら、アキレス腱切断者が出た。シーズン初めで、調整、練習不足もあるだろうが、今後は充分、気をつけてほしい（注・第二日にも被害者が出た。某氏によるとアキレス切断者はこの数年で百件ぐらいという）

遠藤（男）杉田（女）らに敬服

だがさびしい新鋭台頭の不足

日本協会常務理事
松本弘充



▲相沢が女子シングルスで久しぶりに健斗，ライバル竹中をあと一歩のところまで追いつめた。

安沢が僚友・堀の負傷棄権の精神的負担と、看病による疲労があったにせよ、池田とともに練習不足はいなめないところ。ベテラン遠藤啓治（神奈川）のベスト8は日頃の精進と努力、不屈の精神力とバドミントンに対する愛着心に敬意を表する。

女子単。相沢マチ子（新潟）、天野博江（岐阜）、竹中悦子（新潟）の準決勝進出は順当。杉田良子（神奈川）のベスト4はバドミントンの鬼を思わせる大活躍である。

準々決勝で相沢に破れはしたが、一ゲームを取り、健斗した昨年の覇者太田節子（愛知）も注目された。しかし、新進の輩出がないのはさびしい。

竹中、相沢は初出場といっても世界の一流選手である。新旧交代の感はなきにしもあらずであるが……。社会人の中から竹中、相沢に追いつけ、追い越せの気迫がうかがえないのは残念である。

男子複はそれぞれ順当。塩飽・武（兵庫）が二回戦で姿を消し岐阜の森・河田の進出が目立った。

女子複で、池田・篠山（兵庫）、永井・山下（京都）、岡崎・永井（京都）らの新進が活躍したことは喜ばしい。今後の精進に期待したい。

第2日から

第二日目。本日の試合数を記すと——

男子単三回戦から準々決勝まで三十試合、女子単三回戦から準決勝まで三十試合、本日から登場の男子複三回戦まで五十五試合、女子複三回戦まで三十七試合、30歳複準決勝まで十二試合、40歳複準決勝まで四試合、50歳複一試合の計一六九試合。一コート平均二十二試合の過密ダイヤ。午前八時から開始された。

男子単ではデンマーク選手権者小島一平（神奈川）、ベテラン堺栄一（東京）ゆとりをもって準決勝進出。鈴木健二（東京）渡辺直人（神奈川）の準々決勝進出は期待通り。

工藤勇参（熊本）の準決勝進出は堀幸矩（愛知）負傷棄権のフロックがあったにせよ立派。坂本聖二（神奈川）が期待された安沢武司（愛知）、池田信孝（富山）を破り準々決勝に進出したことはその健斗をたたえたい。

ヘアピン

深刻、役員の手不足

1コート当たりの一日試合数20以上で進行係りはテンヤワンヤの連日。第二日は〝飛び石連休〟の中のウィークデーとあって補助役員の派遣をことわった学校もあり、役員不足は深刻。カウンターをラインズマンに回す苦肉の策。とにかく、役員一同、一日12時間以上の勤務はスポーツマンなればこそ。丁度、春斗の真最中なのに?!

会場にドロ君も出没

初日、現金盗難三千円余。会場となりでは競輪開催中。選手の目、役員の目、挙動不振者の発見に大わらわ。マイクで再三、注意をうながす。泥クン。へきえきしたか、第二日は被害ゼロ。

〝シャトルに〟いじらしいベテランの協力ぶり

シャトルの痛み激しく、使用量急増。係りは浮かぬ顔で残高とにらめっこ。原毛不良のなせるわざ。売店で中国直輸の航空牌、敏捷、冠軍などの羽根のあまりのよさに役員席はタメ息。裏方の苦労を知ってか、窮乏時代をしのんでか、ベテラン級は

せっかく満員のスタンドも，表彰式のとき（左）
のようになるのでは，さびしい。もう一工夫を要望。





選手寿命の〝伸び〟を願う

最終日から

日本協会競技力向上委員
高木紀子

全英選手権での負傷のため、選手として参加できず〝第三者〟の立ち場で大会を観戦した。

最終日に拾ったことのなかから二、三、感じたことを記しておきたい。

そのひとつ。男子の単、複、混合と、連続で活躍した堺選手に、まず〝脱帽〟しておいて、さて、それを見ていたスタンドの若いプレーヤーたちが、感嘆まじりに拍手を送っている姿になんとなく割り切れない感じを抱いた、と告白する。

卜杯チームの主将、堺選手は三十歳。しかし、日本でも同選手の年代までくらいの人は「活躍するのが当然」と考えられる時代が早く来てほしい、と私はつねづね願っているからだ。

いや、むしろ、男子の選手層を厚くするためには、どうしても、それが必要な条件だと思うからだ。三十歳を年寄り？扱いすることなかれ、だ。

その二つ。女子シングルスで久しぶり、相沢選手の思い切ったプレーが目立った。

中盤すぎまでの経過では、こ一、二年の、彼女のシングルスの〝スランプ〟が解消できるのでは、とひそかに考えたほどで、迫力があった。

あと一歩の押しが足りず、タイトルをのがしたのは残念だったが、しかし、それでも、彼女なりに大きな収穫があっただろうと思う。

最後に閉会式。従来の〝型にはまった〟様式では、あまりにも形式だけにとらわれているような気がする。

それよりも、それぞれの種目の決勝が終ったとき、その場で表彰した方が、どんなにか感激を増すだろう。観客も惜しみなく選手を祝福するだろう。これは永年の選手生活の実感でもある。

もちろん、主催者側のいろんな都合もあることだろう。しかし、せっかく開会式を、選手のことを配慮、能率化したのだから、しめくくりも、ひと工夫ほしかった。ともかく、今後のため、お互い検討の必要がある。

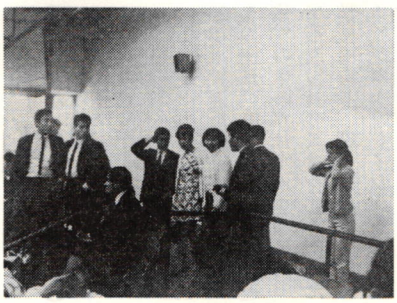
羽根が折れても、もくもくとシャトルを追う。ありがとう。

ウエアの〝ショウ〟にうるさいスタンド評

遠征帰りの女子。再三ウエアーを取り替えての出場「カッコいい」「日本人向きじゃない」「センスがない」「外国製ならなんでもよい、は間違いだ」とスタンド雀のさえずりは大変。残念ながら「カッコいい」はきわめて少数。

パラリンピック代表が勢ぞろい?!

後藤（新潟）がヒザをかばいながらカムバックした。しかし高橋（東京）高木（岐阜）は欠場。竹中も足を痛めた。このほか湯木（日女体）もまだ…ユ杯代表はケガだらけ。「今度はパラリンピックで優勝しよう?!」



相沢は、なぜ負けた

〝パートナー愛〟がブレーキ？

読売新聞・小林範夫

「〝ビッコの竹中〟を相手に、ゲームを11―8でとり、第二、どうして相沢は負けたんだ」―第三ゲームとも7―4と先行しながら、後半凡ミスを連発してきスタンドからこんな声がもれた。自滅した相沢。「彼女はシングの故障は、見た目にもひどく、持ちまえのフットワークがまったく見られない。

竹中の動きがにぶいとき、どこを攻めればいいか、ダブルス・パートナーとして知りつくしている相沢である。しかも第一1―1になったとき、二人はそろって「休けいなしでファイナルをやりたい」と申し出ている。竹中は足の筋肉が冷えるのを考えてのことだろうが、相沢が同じ申し出をしたのは理解に苦しむ。

「竹中さんの足をかばってやったの？」相沢に質問したら、笑って言葉をにごしたあと「〝美しいパートナー愛〟って書いて下さっても結構です」と、冗談まじりで答えた。

相沢が竹中の足をかばって負けてやった――とはいわない。だが、それに近い心の動きが相沢の胸の内にあったのではないだろうか。シングルスの決勝を戦うには、二人はあまりにも仲が良すぎるようだ。

大会期日は再検討の要

多かった事故発生率

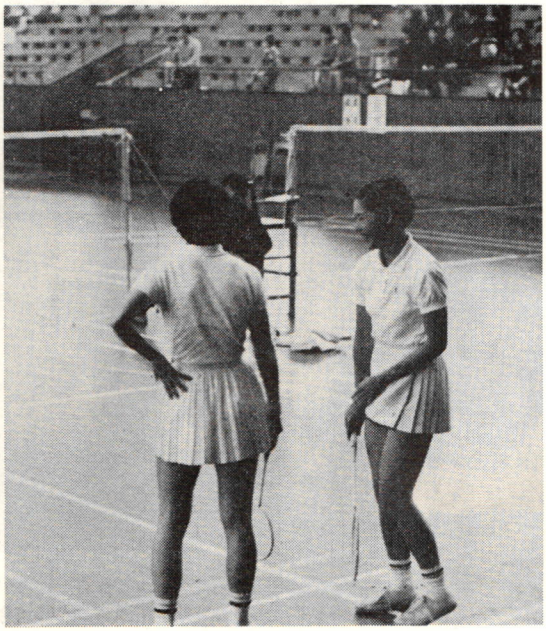
観戦記

大会審判長　岡村英男

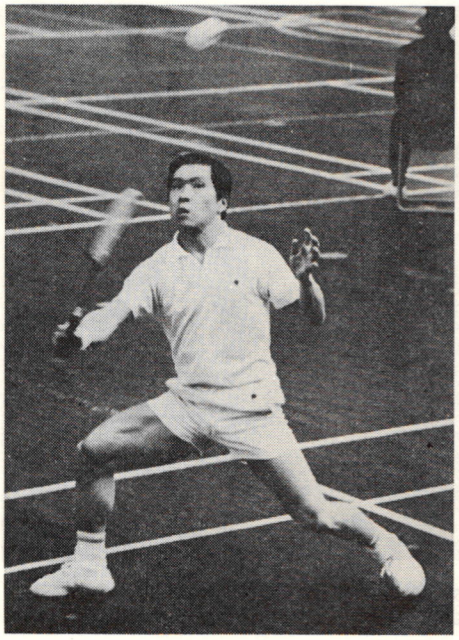
参加選手二三二名、総試合数三八一の未曽有の大勢で行なわれた。千葉県が、バドミントンの全国大会を主管するのは初めて。数少ない役員での準備・運営は苦労の多いことだったろう。

開幕試合は華やかな混合複ではじまった。男女入り混じっての熱戦に、黄色い声援が体育館いっぱいに広がり明るい雰囲気をつくり出していた。続いて、一般男子単、女子単、年令別単と進行していったが、予定時間が一試合三十分では無理な試合も多く、予定された終了時刻の延長が憂慮されたが、棄権時間に助けられて、9時に終った。

第二日目は、前日の単の準決勝までと各複をコートを空けずに進行させ、予定通り7時に終了。最終日は一般男・女複の準々決勝以後と各種目決勝を行なった。予定通り4時に閉会式を終り、大会を終了させた。



◀シングルスで決勝を争った竹中（右）相沢もダブルスは三年ごしの名コンビ



◀男子単にまたまた優勝の小島選手。視線はピタリとシャトルに釘づけされている。

今大会を通じ印象に残ったのは、ベテラン組の大活躍であった。堺栄一（東京・単2位、複1位、混合複1位）、鈴木勝之（神奈川・単3位）、遠藤啓治（神奈川・単8位、30代単2位、30代複2位）、女子で杉田良子（神奈川・単3位、混合複5位）、天野博江（岐阜・単4位、複8位、混合複1位）の各選手だ。

定期的に練習を行ない、自分の体調を考えて試合に備えていたと思われる。立派な心掛けだと思う。

逆に、新卒など若手組が多数参加したにもかかわらず、ベテランに名を成さしめたのはフガイナイの一語に尽きる。わずかに森・河田組（岐阜）、女子の相沢・竹中組（新潟）、池田・篠山組が気を吐いたのみだ。相沢、竹中両選手の女子単決勝は、やはり大会中一番の見せ場だったようだ。欲をいえば相沢選手の一層の頑張りがみられればもっと良かったように思う。試合に勝ってゲームに負けた感があるからだ。今後の奮気を期待したい。

☆☆☆☆

若手組（新人）低調の理由として、①入社早々の大会のため練習する余暇が少なかった、②社会人として体力調整を充分にはかれなかった、③練習場所の充分活用できなかった、などが考えられる。主催側として大会期日について再検討の要ありと感ずる。

また、近年、事故タイム廃止にともない、試合中にケガした場合でも、無理に試合を続行し傷を深くしてしまった例が多くみられる。

☆☆☆☆

今大会でも2人のアキレス腱断裂、膝靱帯負傷2人、捻挫2人と多くの負傷者を出した。床の良し悪しも問題となろうが、負傷者のほとんどが若手現役プレーヤーであることを考えるとスポーツ愛好者の絶対条件である自身の健康管理ということ再確認して欲しいと思う。プレーに対する執着心、郷土、職場の代表という責任感、勝利感などすべて大切なことではあるが、すべて前提の条件をふまえてのことであろう。

年々さかんになる同大会の規模・運営その他問題点となるべきことが多くある。徐々に改良され、真に参加選手の大会として有意義なものにするよう改善していきたいと思う。

☆☆☆☆

ファン不在はごめんだ

仕事の都合で第二日だけしか見られなかった。その中で気付いたPR問題について、少し触れてみたい。

スタンドは、かなりにぎやかに見受けられた。しかし、一般観客はごくわずかだった。大会当局が無策だったとは思えないが、たとえば市内（千葉）各所にポスターを張り出すとか、学校、実業団への呼びかけなどを、どのていどやったのだろうか。

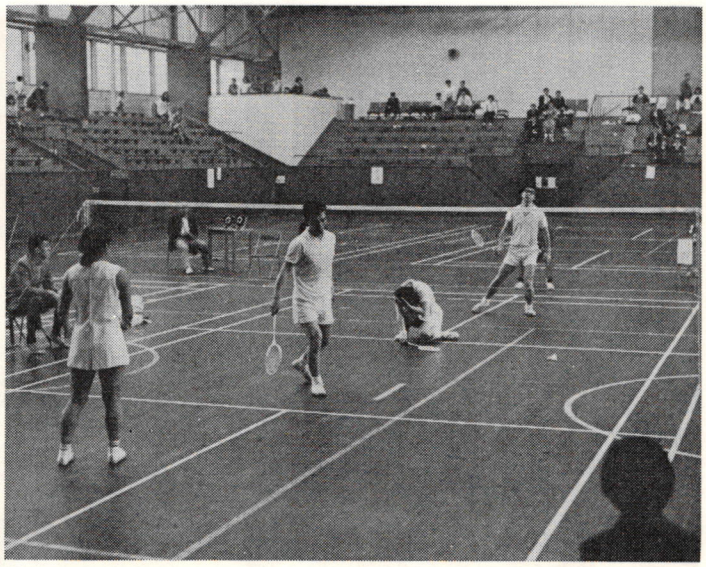
①運営の不なれ②人手不足③予算――それぞれに理由はあるだろう。しかし、①②は努力によってあるていど解決できるはずだ。もし無理なら、日本協会に積極的協力を求めるべきだ。この大会は日本協会の主催であり、かりに日本協会が消極的だったのなら、別問題。

しかし、大会開幕ぎりぎりになっても、各日のタイム・テーブル（試合進行表）が、日本協会事務局でもわからなかった。地元から連絡がなかったからだ。主催と主管当局の責任分担と協力体制の確立、権利・義務の明確化が必要である。

③は入場収入があればカバーできる。もし「この大会に入場料はとれないし、お客が来ない」と考えているのなら、頭を切りかえてほしい。関東の大学リーグ戦すら、延べ二千人が見物「バドミントン界」が百五十部売れたという。小さな会場でも、呼びかけの努力があれば、なんとかできると思う。

新聞関係へのアプローチもなかったようだ。事前に、日程の公表がなかったのが原因だろうが、試合結果も少数の新聞にしか出ていなかったところからすると、連絡（記者が取材に来れないときは、各社に電話で知らせるのがふつう）もなかったのだろう。さびしい限りだ。

プログラムには、選手の所属（県名ではなく）がほしい。ファン不在の〝仲よしクラブ〟式大会だけは、かんべんしてほしい。（東京新聞・後藤忠弘）



まいった！といっておりやす（失礼）混合ダブルスの決勝，シャトルが頭にコツン。金子選手は思わずあいたッ。ハプニングのひとコマ。

第13回 全日本社会人バドミントン選手権大会ランキング

【混　合　複】

①堺　栄一・天野　博江（東京・岐阜）
②安沢　武司・金子美和子（愛知）
③星野　義昭・土井　治子（東京）
④森谷喜久男・奈良岡洋子（〃）
⑤杉田　博・杉田　良子（神奈川）
⑥鈴木　健二・阿久津敏彦（愛知）
⑦長谷川美男・上野　明子（東京）
⑧吉田　邦知・奈良岡千（神奈川）

【40歳以上　単】

①毛利　清志（岡山）
②浜中　誠（愛媛）
③森脇　等夫（東京）
④山上　周之（岡山）

【40歳以上　複】

①毛利　清志・山上　周之（岡山）
②権田　正一・森脇　等夫（東京）
③山崎　博光・佐藤　光雄（〃）
④高橋　重夫・河辺　満（千葉）

【50歳以上　単】

①伊藤　基記（熊本）
②久代貫三郎（京都）
③上口　正一（東京）
④社　竹三（岡山）

【50歳以上　複】

①上口　正一郎・中山平八郎（東京）
②伊藤　基記・社　竹三郎（熊本・岡山）
③久代貫三郎・広野　浩（京都）

【一般女子　複】

①竹中　悦子・相沢マチ子（新潟）
②池田　栄子・篠山　和江（兵庫）
③永井かおり・山下三枝子（京都）
④岡崎　繁子・永井むつみ（〃）
⑤綾井美津子・山本みどり（香川）
⑥上野　明美・太田　節子（愛知）
⑦金子美和子・竹中　礼子（〃）
⑧天野　博江・後藤　和子（岐阜・新潟）

【30歳以上　単】

①鈴木　祐司（秋田）
②遠藤　啓治（神奈川）
③奥村　明義（石川）
④佐伯　友正（愛媛）
⑤北野敬四郎（大阪）

【30歳以上　複】

①星野　忠男・井門　鎮雄（東京）
②杉田　博治・遠藤　啓治（神奈川）
③北野敬四郎・宝来　敏夫（大阪）
④浜中　誠・佐伯　友正（愛媛）
⑤河崎　一幸・福井　正康（東京）

【一般男子　単】

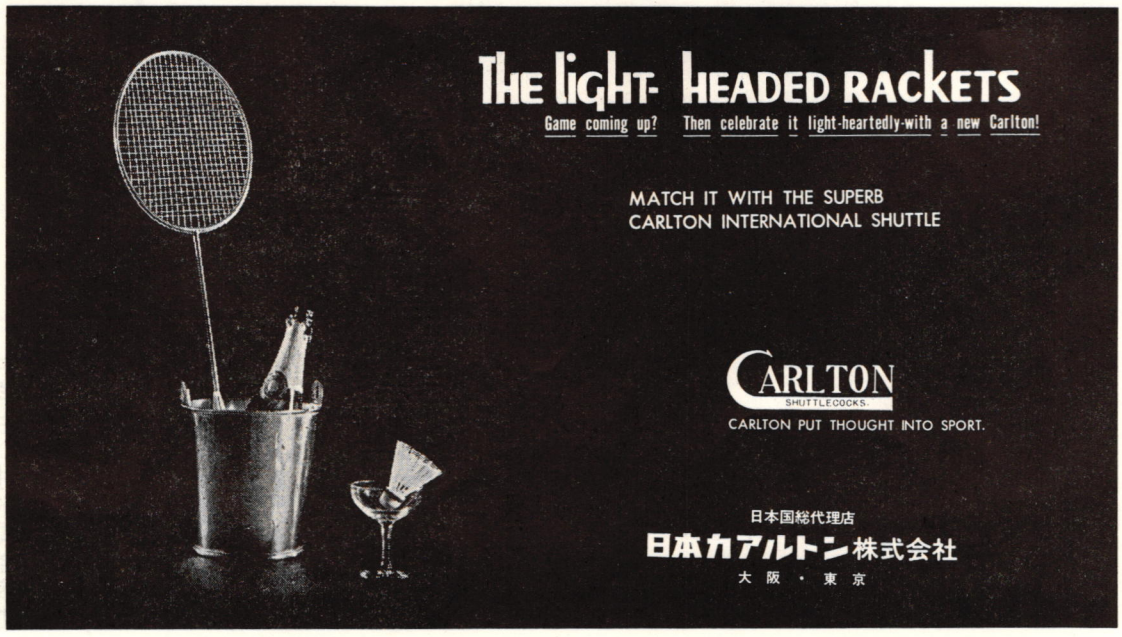
①小島　一平（神奈川）
②堺　栄一（東京）
③鈴木　勝之（神奈川）
④工藤　勇参（熊本）
⑤坂本　聖二（神奈川）
⑥鈴木　健二（東京）
⑦渡辺　直人（神奈川）
⑧遠藤　啓治（〃）

【一般男子　複】

①堺　栄一・関　一誠（東京）
②森　芳夫・河田　満（岐阜）
③森谷喜久男・星野　義昭（東京）
④伊村口　隆・樋口　一春（愛知）
⑤鈴木　健二・池田　信孝（東京・富山）
⑥落合　孝行・平井　克明（東京・埼玉）
⑦杉田　博・坂本　聖二（神奈川）
⑧山本　洋彦・中山　広明（東京）

【一般女子　単】

①竹中　悦子（新潟）
②相沢マチ子（〃）
③天野　博江（岐阜）
④杉田　良子（神奈川）
⑤太田　節子（愛知）
⑥大橋美和子（〃）
⑦福永久弐子（兵庫）
⑧小沢八重子（愛知）



特集

中学生対策を考える

〝次官通達〟のカベは取れたが

関東教職員連盟理事長　池田昌道

あまりにも多い悩みと問題点

手痛い新卒指導者の不足

日本協会の卒先対策が急務

バドミントン人口の増加につれ、最近、中、高校生を中心とした底辺の充実ということが強調されている。

とくに、中学校では体育の教材にバドミントンがとりいれられ、文部次官通達の緩和によって広い範囲にわたる対外試合も考えられるようになってきている。しかし現実にはまだいろいろ解決せねばならない問題もすくなくない。

東京都の中学校の現況をみると、十六年前の昭和二十九年に今井先(ユ杯監督、二階堂高教)平田登志郎(全日本教職員連盟理事長)両氏の努力で中体連のバドミントン部が発足した。

加盟校はわずか9校で、満足な体育館も、用具もない状態であった。バドミントン・クラブのある学校があると聞けば、わざわざ出かけて加盟をすすめ、バドミントンに関心のある教師がいれば、クラブをつくることをお願いするという、苦労の結果、加盟校も次第に増加し、大会も開けるようになった。

それでも大会は半日で終り、あとは指導者の講習会に切りかえたという話も残っている。こうして昭和四十四年度には、加盟校は百二十校となり、二十三区から郡市部にまでおよんでいる。現在都内中学生の競技人口は約一万人といわれている。

中体連では年に三回の大会を規定しているが、そのために八面から十面のコートを確保するのに苦労している。技術の方もドロップ・ショットができれば最高という程度であったが、その中から永井、宮永、西野などの名選手が育っている。しかしなんとしても次官通達のカベがあつく、そのためレベル・アップの計画も行きづまってきた。

昭和四十年頃、たまたま東京の里見光徳氏(高体連理事、小石川工高校教)と栃木の遠井稔男氏(協会指導委、真岡女子高教)の間に、東京の中学生と栃木の中学生とで定期的に親善試合をやろうではないかという話がまとまり、その年の十月十日、体育の日に第一回の大会が栃木県の上三川中で行なわれた。

自信たっぷりの全東京選抜チーム(?)は上三川中の単独チームに8―1で完敗し、都会っ子がいかに基礎体力に欠けるかということを痛感させられた。

第二回、第三回は東京チームの勝利に終っているが、昨年から神奈川の坂本正樹氏(協会指導委川崎玉川中教)が川崎地区の中学生をつれて参加され、いよいよ関東ブロック大会も可能というところまできている。

なお、都内中学生の技術向上と、指導者の研修をかねて定期的な講習会が、女子二階堂高校、男子は日大鶴ケ丘高校で開かれており、多数の中学生が参加して大いに成果をあげている。

しかし、こうして活動が活発化すればするほど、いろいろの悩みがおきてくる。はじめてラケットをにぎる中学生に対する適切な指導こそ、将来の日本のバドミントンを左右するもので

中学生の対外試合参加基準などについて

中学生の対外試合(よそに出かけていってやる試合)については、44年7月3日付け「文部事務次官通達」にもとずき、おおよそ、つぎのように定められている。

①12歳以上、15歳以下(つまり中学生)の生徒を主たる対象として行なう競技会は、原則として地域大会(たとえば、関東とか関西とかの範囲)にとどめる。②ただし、体力にすぐれ、競技水準の高いものを選抜して行なう場合は、全国的大会を行なってもよい。③このような場合をふくめ、開催回数は、地域大会、全国的大会とも一年に一回ずつの程度にする。

なお、全国的大会は、事前に「青少年運動競技中央連絡協議会」に要項を届け出て、承認してもらわなければいけないことになっている。

以上の取り決めは、実際には微妙な表現が多く、運用の仕方は、かなり弾力的にできるようになっている。つまり、ずばり〝全日本中学選手権〟はいけないが〝選抜大会〟〝優秀選手招待〟などの名称でなら、年一回に限らず、二回ぐらいは黙認?される、ということだ。

あるが、実際に、新しく大学を卒業して都内に就職される人が、ほとんどいないのである。

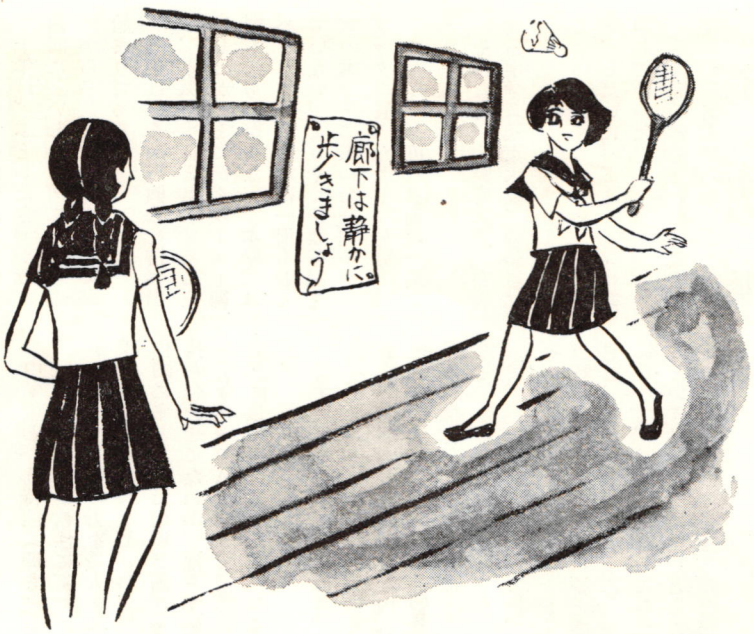
公立の中、高校が新卒者を採用しないこともあるが、これではせっかく興味と関心をもちはじめた中学生に対し、ブレーキとなってしまっている。そのほか、指導にあたる教師の勤務時間、クラブ活動における選手養成、予算の不足、受験体制からくる無理解など……それこそ多くの問題が山積みしている。

これを打開するためには、どうしても協会をはじめ、各方面からの理解と援助がなければならないと考える。現在、都内の各体育館ではほとんどがバドミントン教室を開いて、多くの人たちにラケットをにぎり、シャトルに親しむ機会をあたえている。しかしコートに集まるのはほとんどが社会人で、時間的にも中学生の利用は無理である。

ほかの競技団体のように、中学生を対象とした講習会や、バドミントン・スクールが開かれてもよいのではなかろうか。地区ごとのバドミントン・クラブや、全日本の前座に中学生の試合が行なわれることも考えられる。

要するに底辺の充実とは、はじめてラケットをにぎる中学生たちに、バドミントンのすばらしさを認識させ、将来に希望をもたせることだと思う。

そのため、協会が卒先して中学生対策を進めるよう、是非ともお願いしたい。



▶コートが使えなければ、廊下でだって、練習はできる……

え・昔間登美子

《私の指導法・中学校の場合》 連載第1回

〝ひたむきで柔軟な心〟とともに

大阪市立花乃井中　渡辺真規子

きょうもまた、ホームルームの終わるのを待ちかねて、ういういしい姿の一年生たちが、われ先にと練習にやって来る。

やっと、クラブに入って二週間、元気いっぱいで希望にみちあふれている。つぎつぎとやって事る上級生たちに、大きな声で威勢よく「こんちわ、先輩」の連発である。

ついこの間まで可愛いい一年生だった先輩たちも、すっかり貫禄をつけて、さっそく一年生たちを手ばやく集め、練習にとりかかる。「さっと並んで」とか「ファイト、ファイト」とか、うまくまとめて指導しているのに感心する。二年生たちが、いちばんにうれしいことなのだそうだ。

いつもなら、そろそろやめていく生徒が出る頃なのに、今年は、いっこうにやめようとしない。おまけにまだ入ってくる。百名ほどの女子の新入学生のうち、今年はどうしたことか三十数名がバドミントン部に入り、大した人気を集めている。

練習場所もなく、週三回の体育館使用は上級生で占領され、運動場は都会の真ん中のことて、中庭ほどの広さもないため、校舎の廊下の片すみで毎日、練習している。

けれども結構楽しいらしい。階段や廊下で、汗いっぱいの顔をあちこち真黒にしてトレーニングに励んでいる姿は、大変たのもしい。うっかりそばへ行こうものなら、いっせいに「こんちわ」が飛んでくる。そのエネルギーには全く圧倒される。

この中から、また第二の福永（三菱電機）、田中（北辰電機）、陳内（成安高）、佐伯、古谷（一条高）、山田、平野（現三年）、瀬野（現二年）などのような名選手が出ないかな、と、はるかな期待をこめて、じっと可愛いいスポーツマンのたまごたちの練習ぶりをみている。こんな時は私のもっとも楽しいひとときである。

さきほどの卒業生たちの、新入当時を想い起こしてみても、やはり同じ姿が目に焼きついている。

すばらしい目の輝きとあこがれの表情を、この上なく持ってやって来た彼女たちは、私とと

もに次々に成長していってくれた。

花乃井中学に赴任以来、今年で十年目。ふとしたきっかけで顧問にといわれ、何にも知らないから名前だけ引きうけたのが始まりである。

一年目ごろから興味を持ち出し、本気で生徒と共にすることにしたが、とにかくルールも練習も何もわからない。本屋にはバドミントンの本は一冊も並んでいない。ようやく伊藤基記先生の本を手に入れたり、ルールブックを買ったりして勉強しはじめたが、高度な技術は一向にわからない。

そんな時、大阪府大会で布施女子中学（現東大阪）の強さに目を見開き、なんとかして、同じように強くなってみたいものと、しだいにバドミントンに熱中していった。

その間の苦労といえば数限りないが、何も知らないところから出発し、次々に可愛いい優秀な生徒たちがはいってきてくれたおかげで、いつも、目標があり、夢と希望がいっぱいで、あまり苦にならなかった。

そのよう私が、厚かましくも〝指導法〟など書ける柄ではないが、今まで考えて、自分なりに歩んできたことの一端を述べて、皆様方に今後のお教えを乞いたいと願っています。

(1) 招待の計画と練習

中学生という特性（即ち純真で、ひたむきで柔軟性に富む）から考えて、その力を最大に伸ばすにはどうすればよいか。具体的にまとまった指導計画など持ち合わせてないが、知らず知らず今日まで気を配って指導の重点にして来た点をあげてみると、

まず、①やる気、②素直さ、③バドミントンへの技術適性を磨く、④体力、⑤練習量と内容を豊富に、⑥クラブの人間関係、⑦対外練習、見学を豊富に——などである。

まず「やる気」については、バドミントンが大好きで、新入当時のバドミントンへの夢と希望を、また、先輩のように上手になって、試合に優勝してみたいという必死な気持を、どんな時でも持ちつづけさせることだと思う。

生徒が喜んで練習に励むいろいろな方法を考えて、いっしょに練習する。といっても、私の方は体は動かさず、じっとその姿をみてほめたり、注意したり、時には大声でどなったり、いつも生徒たちと一緒であり、信頼できる関係になった上で、バドミントンへの情熱をしだいにエスカレートさせ、小さい体に大きい夢をいっぱいにさせておく。

そして、そういうことも含めて、素直な性格、純真な態度を育てていくことは、欠くことのできない要素であると思う。最初の素振りから、苦しいトレーニングも、また、さまざまなむずかしいバドミントンの技も、そして、追いつめられた試合において、ねばりにねばって勝ち抜く闘志も、純な、素直な気持ちがあれば、自然にマスターされて、上達していっている。

中学生は理屈抜きに純情であり、すぐに言動に表わされる。私がどんなに無理をいっても、文句をいわずについて来てくれる。そんな、けなげな中学生たちに魅せられて、今日まで続けて来たのかも知れない。

しかし、中学生には体力の限界が著しい。三年生になっても少し長時間練習すれば、すぐに貧血したり、気管支をわずらったり、膝の骨が痛んだり、時には腎臓、肝臓を悪くしたり、いつも心配が絶えない。柔らかく、未だ日々、発達しつつある肉体である。

体づくりに重点をおかないで、技に走れば、とり返しのつかない結果にならないとも限らない。その限度を研究しての技の上達である。（つづく）



女子のウエア新傾向をさぐる
外国勢、圧倒的にワンーピス
デザイン、アクセサリーにも工夫こらす



スポーツは、プレーそのものだけが〝すべて〟ではない。いいプレーと同時に、選手自身はやちろん、観客もともに楽しめる雰囲気が必要だ。

〝白のスポーツ〟といわれるバドミントンでは、その点、とくに女子選手のウエア（身につけるもの）の存在が大きい。

より美しく、より楽しく、という、女心が求めているウエアのニュー・ファッションを、とり上げてみた。

座談会出席者

海外遠征帰りのグループ
高木　紀子（東海女短大教員）
天野　博江（　同　）
竹中悦子（新潟青陵短大助手）
相沢マチ子（　同　）

デザイン提供

東大阪短大・佐藤茂雄先生のグループ
佐藤　茂雄（東大阪高校教員）
池田　栄子（東大阪短大OG）
篠山　和江（　同　）
柴山きよ子（東大阪短大）
高崎　弘子（　同　）
石崎　茂子（　同　）
及川　恵子（　同　）
坂本　恵子（　同　）

※デザイン画製図　芦間　登美子

A　今春の海外遠征で気ずいたのは、外国選手に、ワン・ピースのユニフォームがふえたこと。過半数がそうだった。

B　伝統を重んじる英国でさえそうなんだから。それだけのよさがあるわけよ。

C　ひとつはカッコいいことね。もう一つは着やすく、プレーしやすいこと。

D　ワン・ピースつまりソデなし、ソデがあると動きにくいし、邪魔に感ずる場合も出てくるわネ。

A　スカートの部分もちがってくる。テニスだと動きが大きいし、動作もゆるやか。バドミントンはせまい範囲で急激な動きが多いから、ふわっとひろがったり、からだに巻きついたりするのはまずい。

B　ワン・ピースが絶対というわけじゃないけど、着やすく動きやすく、カッコいいとなると、一つの方向が出てくる。

C　日本ではどちらかというと「実力もないのに、着るものだけハデで」とか「勝つことが第一、着るものなんか、どうでも」という観点から、新しいものを着たりすると抵抗が強い。

D　考え方はわかるし、それにも理屈が通っている。でも、それと、ささやかなおしゃれ、美しさを求める気持とは次元が別よ。

E　自分も楽しみ、お客にも楽しんでもらうのは、決して悪いことじゃないもの。

A　テニスの全英選手権なんか、それ自体がファッション・ショウといわれるくらいよ。

B　着るものは白、という規定があるから、そう突拍子もないものはダメだけど。

C　そうね。別の色で線を入れるとか、ボタン、飾りを工夫するとか。

D　ベルト、ヘアバンド、髪型、下着のフリルなんかも。

A　デンマークで見た子はソックスがブルーでベルトが同色だった。

B　ハイソックスはどう。冬なんか暖かいしネ。

C　外人選手を見て感心したのは、一人一人が自分の個性を生かし、好みに合わせてデザインを工夫していること。

D　傾向としてAラインね。

A　デザインは自分でやるのかしら。

B　ぬうのは自分でかどうかわからないけど、やはり専門のデザイナーに相談するんじゃないかしら。

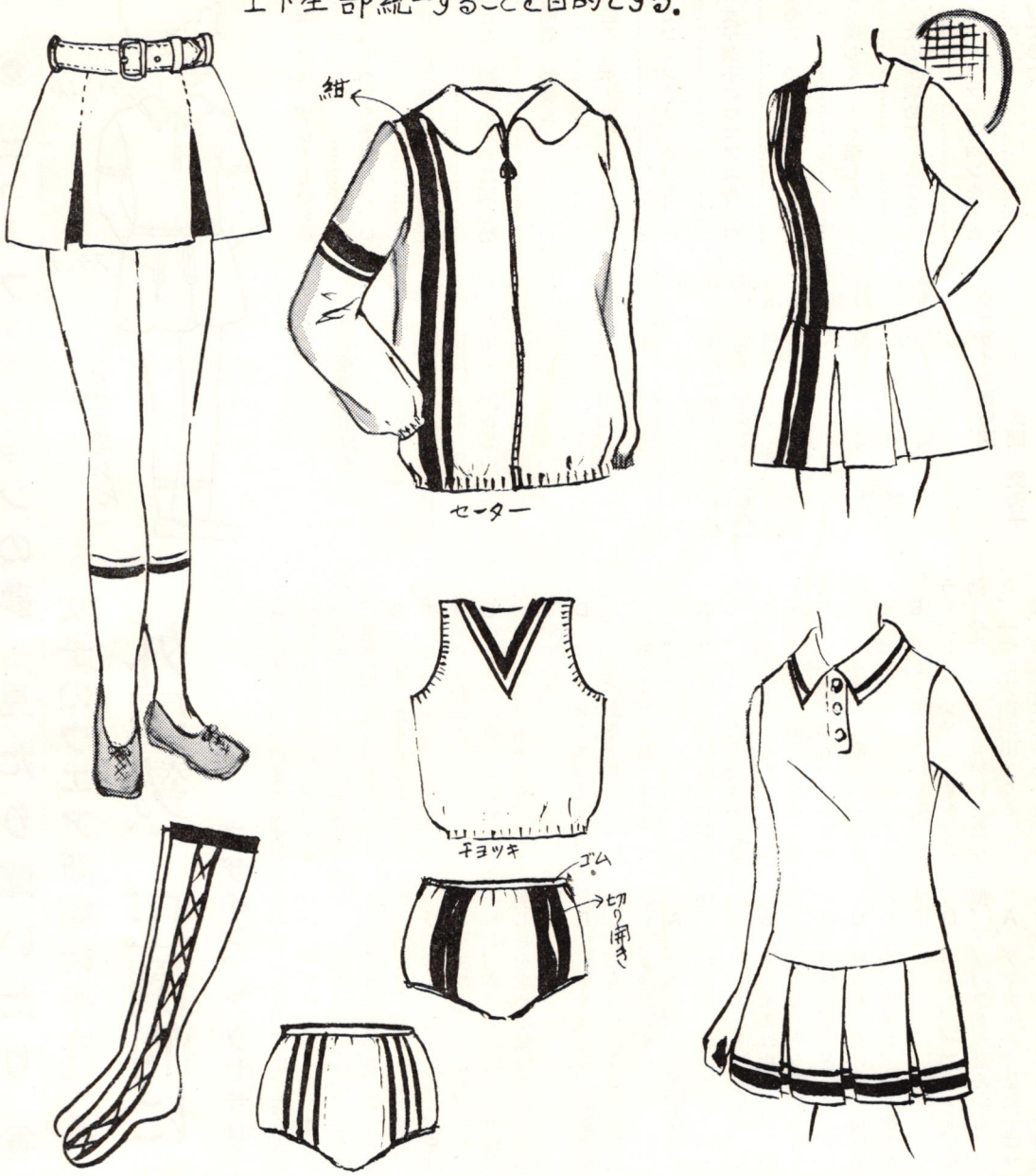
C　材質にしろ、型にしろ、とにかく既成のものをだまって着るんじゃなくて、メーカー達に話して協力を得ていくことが大切よ。

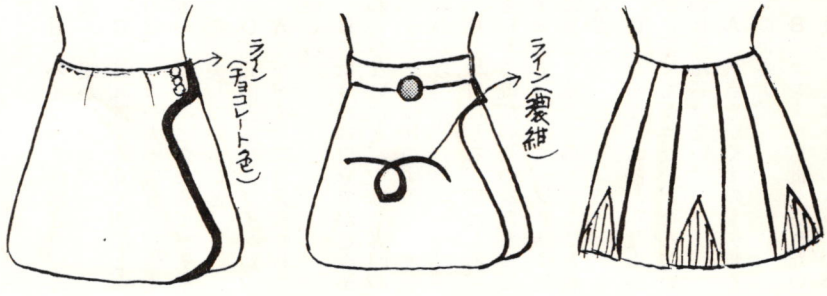
D　なんだ、お前たちなんかなに着てもサエない、なんていわれるんじゃない。

A　欠点をかくすのもデザインのよさよ。

B　プレーでも批判されないよう、がんばりましょう。（笑）

上下全部統一することを目的とする。





ここにご紹介するデザインはいずれも、佐藤先生はじめ、各セニョリータが、腕にヨリをかけ、首をひねって、生み出したもの。

デザインというのは、しろうとが考えるほど簡単なものでは





ない。絵の段階では、なかなかいいな、というものでも、実際に製作するのは不可能というときがあるそうだ。しかし、まあ理くつはやめ、乙女の夢をせいぜいたのしんでほしい。

技術講座

百万人のバドミントン上達法

連載

バドミントンありがとう いいスポーツです

幼少年編〔完〕

伊藤基記

本号でこの講座の内容に一つの区切りをつけて、次号からは新しい項目が登場するということです。私は小中学生の少年少女諸君を対象として、主として、種を蒔き、苗を育てる時代の大切なことを繰り返し力説してきました。

これからも折をみて、さらにこの問題を色々の角度から堀りさげてみたいと思っています。

今日は今までの総まとめのつもりで、もう一度バドミントンのよさ、スポーツのよさをかみしめてみたいと思います。

私は小さい時から色々のスポーツを楽しんできました。

これからもスポーツをつづけてゆきたいと胸をふくらませています。恐らく死ぬまでバドミントンのラケットを手からはなさないだろうと思います。

私の墓石には一面に「ラケット気狂いここに眠る」。反面には「幼児気狂いここに眠る」と刻んでもらいたいと思っています。考えてみると私は一生なおることのないラケット異中毒患者のようなものです。

ラケット病にとりつかれたお蔭で、かかるかも知れなかった人間のその外のいろいろの病気にかからないですんだと神様に感謝をしています。

少年時代には夢中でテニスを楽しみました。バドミントン病にとりつかれたのは三十八才という、一般の方々がやめるような年令でした。それでも、本当にバドミントンを知ってよかったと、汗を流してよかったと思っています。

随分お金もつかいました。時間もかけました。けれども少しも後悔していません。幼年時代にお土産にもらった一本のラケットが、思えば私の生涯に大きい影をなげたものです。

だから私は、ラケットを持った少年少女をみると、やたらにかわいくて、どうか上手になってもらいたいと念願します。

教室でお勉強をすることも大切です。いや教室だけでなく、どこでも、学課のお勉強をすることは大切であって、考えたり、覚えたりすることは人間として生きてゆく上に大切です。

それと同時に、頭の中だけでなく、体で考え、体で覚えることも大切です。教室だけで、お勉強部屋だけで立派な社会人はできあがりません。

この前にもしばしば述べてきたことですが、運動場にも、体育館の中にも、河原や、山や森や林、野原やプールにも、尊い人生の教訓がころがっています。教訓といえば、ちょっと固苦しい気がしますが、そこには生きてゆく「力」が溢れています。

運動に夢中になって、子供の学力がおちると心配されることも結構ですが、私が世の親様方に申し上げたいことは、その心配の前に、その運動の場で、子供達が、どんなに懸命になって、苦しくても頑張ること、落付いて考えること、工夫すること、協力すること、助けること、力をうまく使うこと、つづけること、倒れても立ち上ること、同情すること、悪いことに対して怒ること、全力を傾注すること、力をぬくべきときにぬくこと、多くのことに注意を配ること、逆に、まっしぐなに突き進むこと、相手をかわすこと、反動をうまく使うこと……数えきれない、複雑な、人生の力の細胞分裂をつづけている現実を、直視していただきたいということです。

いずれの世界も、無制限、無軌道はいけません。そこに年長者からの適当なアドバイスが与えられ、リードされ、ブレーキがかけられることの必要さを、否定するつもりは毛頭ありません。

しかし、失なうものだけに気をとられずに、獲得しているものにも眼をむけてもらいたいのです。若し、皆さん方のお子様が、ラケットを握っていたら、「遊んでばかりいて、勉強しなさい」と引き離す前に、親と子で、ハネの打ち合いをしてみて下さい。バドミントンが、親と子の心の血を通わせる素晴らしいスポーツであることを、はだを通じて、ひしひしと感じられるにちがいありません。

私は『親と子の体育遊び』の講習をしばしば、大学の教授の立場から致します。いつもラケットをたくさん用意して、親子のバドミントン遊びをしてもらいます。皆さんにとても楽しいといってもらって、目尻をさげています。

さあ、貴方も、君も，僕もラケットを振りましょう。バドミントンありがとう、いい運動です。

中高校編 (9)

フットワークについて

“ホーム・ポジション”を生かす

遠井稔男

フットワークはバドミントンの土台に当たる。ストローク・ショットを生かすも殺すも、フットワークにかかっていると思う。

フットワークの根本は脚の筋・関節の瞬発性、柔軟性、持久性、調整力にある。目的にかなう安定したストローク・ショットをすることがフットワークの条件である。どんな早い動きにも、どんな長いゲームにも、へこたれずついていけるフットワークを身につけていかなくては強い選手になれないだろう。

◉フットワークの条件

○ストロークのできる位置に早く移り、ホーム・ポジションに早くもどる。

○からだ全体が常に安定し、バランスを保つこと。

○動きはリズミカルであり、重心の上・下動が小さいこと、などであろう。

◉ホーム・ポジション

ホーム・ポジションには、ショート・サービス・ラインの後方150㌢くらいのセンターラインを中心に位置とっている。

しかし、身長やリーチ、脚力やスピード、前さばき技や、後さばき技など、選手それぞれの長、短によっていくぶん異なる。特にシングルスの場合、ホーム・ポジションはフットワークの本拠地であり、ここからコートのいたるところに動き、シャトルをヒットするわけである。

主に前後、左右、斜前方、斜後方などに応用動作を混えてフットワークしている場合が多い。ホーム・ポジションは右足(ラケット足)を半足長ぐらい前に出し、左右に開き、体重を足全体にかけるようにして、ヒザをやや曲げ、重心が指先にくるような感じで立ち、手首、腕の力を抜いて、ラケットをごく自然に顔の前に持って構えるのが一般的である。

【フットワークの一例】

◉フォア・コート・ネットの場合

○ホーム・ポジションの構えより、右足を軸にして左足を右に踏みこみ、左足に体重を移し、左足を軸にして、右足を大きく右斜前方にけり出し、ヒザを曲げ、体重を右足にのせ、同時に左足を右足の後にそえてストロークをする。

両ヒザの屈伸反動を利用して右、左、右、左足と、もとの位置にもどる。(図1)

○ホーム・ポジションの構えより、右足を斜前方にピポットを踏み出し、体重を移し、左足を、右足の前を通して移し、体重をのせる。

右足を大きく踏み出し、ヒザを曲げながら体重を移し、ヒットする。同時に右足後に左足を引きよせてもよい。低い姿勢で自動車バックまでは、右、左、右、左と戻る。(図2)

◉バック・コート・ネットの場合

フォアハンドの場合は、最初、左右両足のどちらかを軸にしたが、バックハンドの時は、必ず右足を踏み出して、ネットに出て、ストロークする時も右足を前にする。大きく出した時は、左足を引き寄せると、戻りも早い。(図3)

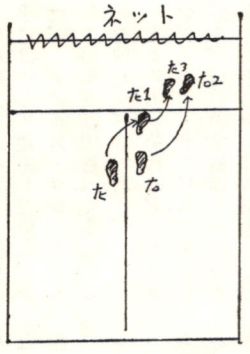


図 1

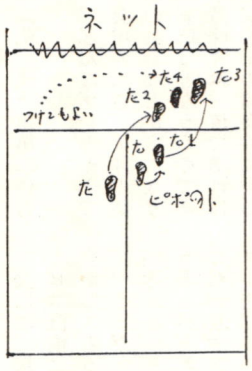


図 2

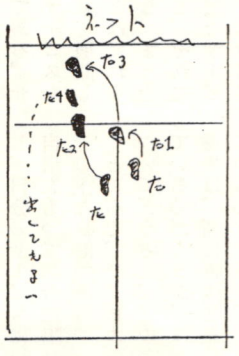


図 3

世界的な名手でドライブ・サービスやシュート・サービスを巧みに応用するプレーヤーについては筆者もよく知らないが、かつて一世を風靡したソネビル（インドネシア）、今もなお国際的に活躍を続ける大ベテランのコップス（デンマーク）などはシングルスでのシュート・サービスを実にうまく生かしていたことを記憶している。

また、国内では、杉田選手（神奈川）、堺選手（東京）をあげることができよう。

強打の相手にはシュート・サービスを用いてそれを封じ、打ち気にはやる若手選手には誘いのドライブ・サービスで巧妙に相手を翻弄する場面をしばしば見せてくれる。読者諸氏の中にも、この両者に、苦汁をナメさせられた人は少なくないであろう!!

さて、いろいろと述べてきたが、このあたりでシングルスのサービスについての心得をまとめておこう。

まず最初に完璧なロング・ハイ・サービスを体得し、それを生かしての試合運びをマスターすることである。即ち、このサービスとそれに基ずく試合運びに絶対の自信をもつことが何より先決である。

それが自分のものになりきっていないのに、シュート・サービスや、ドライブ・サービスなどの小細工を試みても、強い相手には決して通用しないし、また、シングルス・プレーヤーとしての大成は望むべくもないことを銘記すべきである。

ところで、それほど大切なロング・ハイ・サービスでありながら、自分の希望通りの高さと深さにそのサービスを送りこむのは生やさしいことではない。ほとんどの人々が体験していてもその会場の広さ、天井の高さ、照明の具合などが気になり多少の不安感は伴なうものである。ある意味では一流であればあるほど試合場の諸条件に対して神経質であるともいえる。それを克服するにはどうすればよいか。まず、自分のサービスのフォームを分析して、より合理的なフォームにすることである。

(1)サービス時の自分の位置（コートのどの位置でするのか）
(2)スタンスのとり方
(3)ラケットの振り方と打球点
(4)身体のひねりと体重の移動
(5)インパクトにおけるラケットの角度

大体、以上のように分けて自分の欠点を見出し、素直な気持で改め、自分自身に最もマッチしたフォームを完成することである。

次には、精神統一である。サービス直前に、このサービスを生かしてどういう作戦を展開してやろう!!ということはだれもが考えることだろうし、またそうあるべきだ。しかし、それにこだわりすぎて、完璧なサービスが送りこめないのでは折角の作戦も水泡に帰すことになる。

即ち、サービスの瞬間には、より完璧なサービスをすることに全神経を集中するべきである。フォームが完成し精神統一も充分に体得できれば、どんな会場やコートにおいても自信に満ちたサービスができるはずであるし、それを生かしての作戦も有利に展開するであろう。

さらにプレーヤーの心がけとしては、試合前に、そのコートでのサービス練習をかならずおこなうことである。それはコート環境に慣れるということも含まれるが、完璧なロング・ハイ・サービス（心技共に）を復習し、自分のサービスに絶対的な自信をもって試合に臨むことがその主な目的である。

ところで、サービスの練習についてどう考え、どのようにしているのだろうか、ほとんどの選手は、高校時代に充分体得しているわけであり、大学や社会人としての日頃の練習では時間的に余裕がないため、各種基本練習のときに、試合のときと同じ気持でサービス練習を兼ねてやっているのが実情である。しかし、特別にサービスだけをとり出してやっている人もいる。

- 月に一、二度…三須
- 高校時代、試合前日に100回位やった…西野
- 試合前復習の意味で少し…湯木
- 基本後10分位全精力を傾けてやることがある…小島
- ときに確率を出して見る…石崎
- 必要に応じてときどき…高木

等々である。（この項終り）

話題をご提供いただいた方々に心からお礼申し上げます。尚折角ご協力を賜わりながら、うまくアレンジできなかったことを深くおわび申し上げます。

上級編 ⑥

サービスの重要性・・・《完》

先決〝ロング・ハイ〟の消化

フォーム完成と精神統一

毛利清志

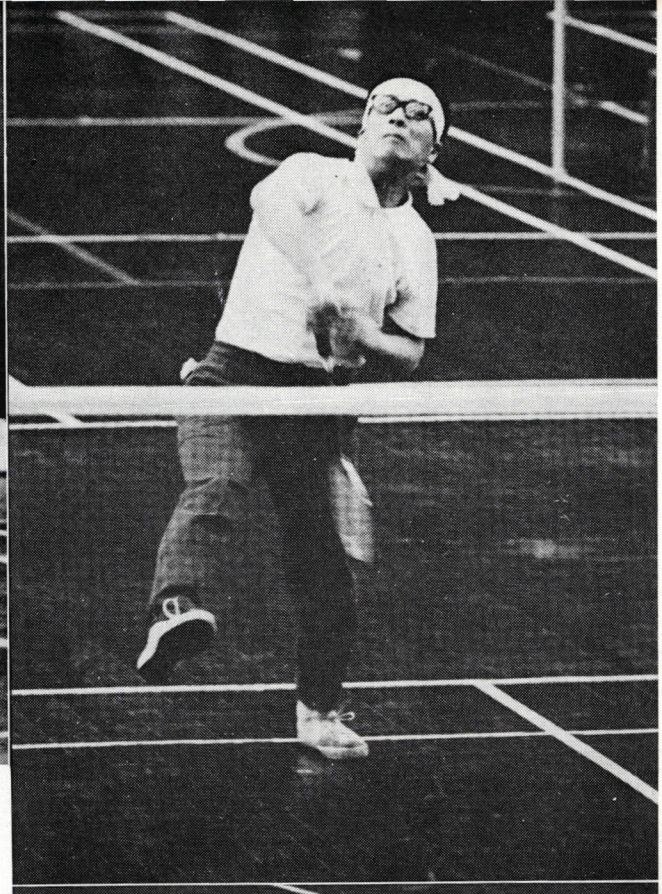

相沢がんばる
第13回全日本社会人選手権から

はつらつ!! ベテランの味

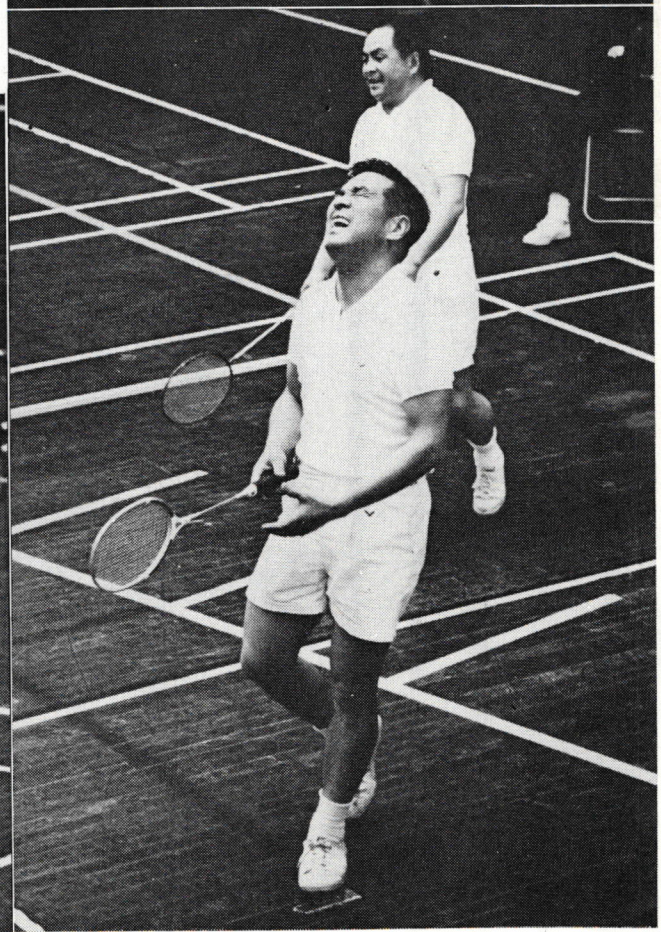


ぶりにカムバック ⬆

]に復帰した。昨年10月、長崎国体で左ヒザを痛め、
]けられ、準々決勝まで進んだ。







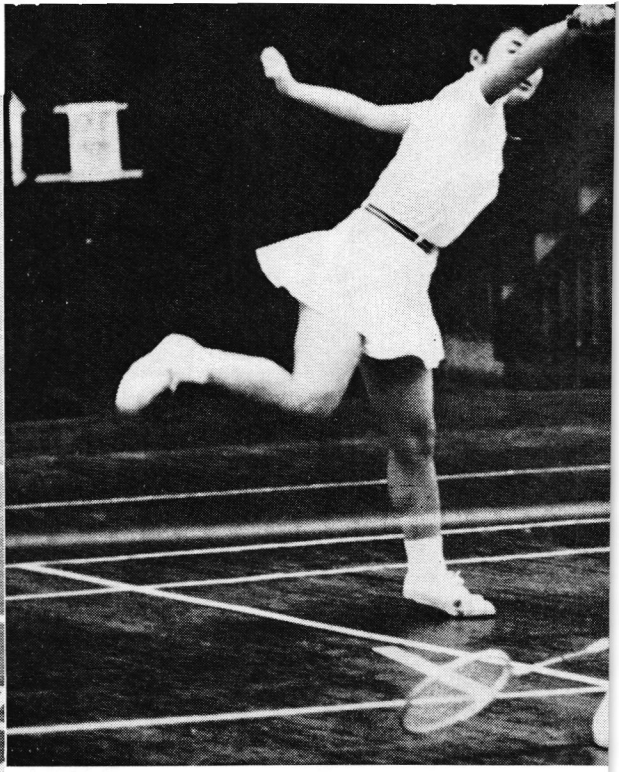
⬆ バドミントンでうれしいのは、いつも〝昔とったキネズカ〟組が、数多く参加し、若手に負けず、はつらつとしたプレーを見せることだ。

ミックス(混合)にも注目



ミックス（混合）ダブルスの価値が、最近ようやく注目されてきたのはうれしいこと。近く、ミックスだけの大会も、の声も出ている。





ユ杯の後藤、半年

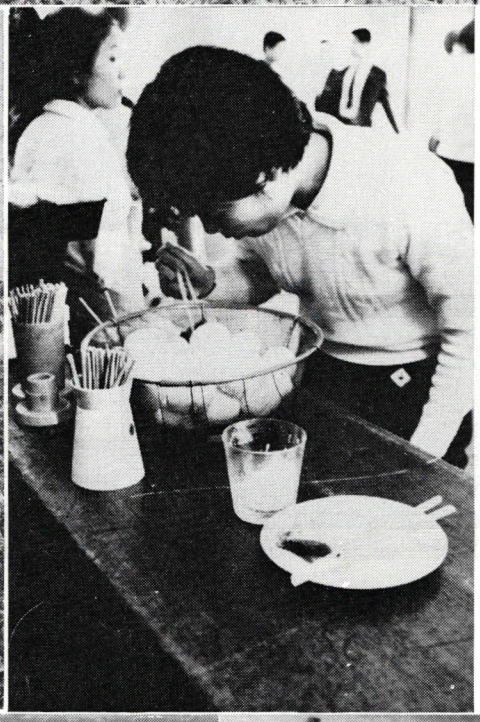
第４、５回のユ杯代表、後藤和子（新潟）が半年ぶりにこの大会まで約一週間ラケットを握っただけだが、天野



コートを離れて







ハラがへってはいくさができない。しっかりつめこんで、さあ、こんどは試合に備えよう。

戦いすんで、日がくれて、コートの片付けは人海戦術で

うまくなるには、一にも二にも努力だよ、と小島選手





心理学的にみたバドミントン選手の性格と試合態度について

＝前田美津子さんの研究から＝

「三すくみ」という言葉がある。ヘビはカエルをのみ込むが、ナメクジには弱く、ナメクジはヘビには強いがカエルに弱い。三者が集まった場合、結局だれが強いのかわからない。人にはそれぞれ〝ニガ手〟がある。バドミントンの試合にも、これと似たことがよく見うけられる。Aさんは自分よりも上手な人に勝つことが多く、Bさんは弱い人に〝取りこぼし〟が多い。このことはその人の性格と深い関係があるのではないだろうか――。

このことに気がついて調査、研究を進め、大学の卒業論文にまとめた女子プレーヤーがいる。学芸大をこの春卒業、東京・小平市の小平第十四小学校に就職した前田美津子さん（二三）＝佐賀県出身、伊満里高＝。

前田さんは、昨年度、三多摩学生選手権の女子シングルスに優勝した程度で、まだ競技歴も四年と浅いが、バドミントンを始めたときからこのことに興味をもっていた。そして今春大学を卒業するとき「対戦相手に予測・認知・試合態度と性格特性との関係について」と題する論文にまとめあげた。

前田さんの調査方法は、まず関東の女子大学バドミントン部員七十七人に、六項目からなる質問用紙を手渡して回答を集め、そのデータを心理学の性格検査方式に従って統計処理し競技者の特長と性格との関連を引き出そうとしたものである。

質問の内容は①対戦相手について情報を集めるか②対戦相手の能力、作戦などにつき、自分独自の判断を下すか③その判断を下すことが良い結果を生むかどうか④対戦相手がかわることによって、自分のファイトがどうかわるか……などである。

集められたデータは、コンピューターを使って整理されたが、残念ながら、心理学の基礎知識のない〝しろうと〟が安易に理解できるほどかんたんなものではなかった。たとえば「試合中、相手が以外に強かったとき、ファイトがわくか」という質問に対する答えでも、強いといってもどの程度強いのか、相手が手ごわいとさとったのは第一ゲームのときか第二ゲームか……などによって状況がまちまちなので、いちがいには言えないからである。

ただ、前田さんの研究から一般的にいえることは――強い選手ほど相手の情報を集めている。ファイトがもりもりわいてくるのは相手が自分と同程度かあるいは強いとき、技術が十分発揮できるのは、相手の能力が自分と同程度のとき。試合中、相手が以外に強いとさとったとき、ファイトがなくなる人が多い。――などである。

この研究は、対象が女子プレーヤーだけであり、前田さん自身が論文の中でことわっているように、データ不足で、調査方法にも多少問題があることは否定できない。

だが、現役のプレーヤーが、自分のやっている競技を科学的に研究しようとする態度は貴重で、他の競技でもあまり例を見ないことだ。とくに新興スポーツのバドミントンに関しては、体育関係の大学研究室でさえ、ごく最近になって研究に着手したありさまだった。

この未知の分野に、しかも選手の心理という〝とりつきにくい〟テーマにとりくんだ前田さんの勇気と努力は、高く評価されていいだろう。

スポーツ界にとって一九七〇年代は科学との融合の時代といわれている。スポーツを科学的に解明した者が、より有利な立場に立つという時代である。今後は協会、または学連が中心となって、広範囲に資料をあつめ、さまざまの角度からバドミントンを〝研究〟していかなければならないと考える。

（読売新聞社・小林範夫）



▶プレー中の前田美津子さん

第一線選手に聞きたい



私は長野県岡谷市の高校二年生です。いま、非常に情熱を燃やし、もっともっと強くなりたいと思っています。それで、先輩の方々の意見を聞きたいと思う心を押さえきれません。左記の方々の住所を、お教え下さい。

▼竹中悦子▼相沢マチ子▼小片千恵子▼湯木博江▼高木紀子▼本間順次（バドミントンを恋人とする一少女より）

同様のご要望が多いので、あなたの希望を加え、一応、昨年度の全日本総合、全日本学生ランキングなどで、上位にはいった人々の住所を、ここで一括、お知らせします。

第一線選手との交流は非常に結構なことですが、選手は勤務（勉強）練習、数多くの試合や模範エキシビションなどで、みなさんより多忙です。なるべく、負担がかからないようにしてあげましょう。（編集部）

【女子】▼**湯木博江**＝東京都世田谷区羽根木町二の三三の五、白尾方（自宅・岡山市門田屋敷四の六の三の八）▼**竹中悦子**、**相沢マチ子**＝新潟市西船見町字浜浦五九三九、青陵学園ひめ松荘四一一号▼**高坂薫**＝東京都世田谷区泉沢二の三七の九、高見方▼**小片千恵子**＝東京都世田谷区駒沢三の一二の一七、金栄荘▼**石崎喜代子**＝栃木県真岡市下籠谷三九六県立真岡農業高校内▼**浦口恵子**＝東京都世田谷区松原一の九の八、弥富荘▼**堀川栄美子**＝東京都世田谷区深沢七の四の三、日体第一女子寮一〇三▼**本間恵美子**＝東京都世田谷区桜上水二の二六の七、近藤荘

▼**高木紀子**、**天野博江**＝岐阜市長森野一色東陽町一の六二、沢田方▼**池田栄子**、**篠山和江**＝兵庫県尻崎市南塚口町三の一四の八、三菱電機K K白百合荘▼**石崎茂子**＝東大阪市西堤学園町三の一、東大阪短期大学寮▼**柴山きよ子**＝奈良県大和郡山市小泉町西方四四九▼**高崎弘子**＝大阪府北河内郡四条畷町南野四一〇▼**高橋とも子**＝川崎市鹿島田一二四、ときわ荘▼**後藤和子**＝新潟市山木戸一二七三

【男子】▼**本間順次**、**今泉勉**、**岩下一雄**＝東京都葛飾区柴又六の九の七、三須方▼**寺前信之**＝富山市針原中町八〇四▼**梅野尾昌一**＝東京都豊島区西巣鴨四の三七四、野本方▼**杉山修**＝東京都品川区西品川三の二の一〇、小松方▼**森芳夫**＝岐阜市都通五、川島紡績K K内▼**池田信孝**＝横浜市緑区青葉台二の三〇の六、電々青葉台合宿所

▼**小島一平**＝横浜市中区本牧大島町一五三▼**西野一征**＝東京都新宿区新宿二の七四、ニシヤ洋品店▼**秋山真男**＝甲府市丸の内三の一六の一三▼**高林弘則**＝富山市丸の内二の三の二▼**堺栄一**＝東京都品川区旗の台三の七の九

◆中学生の自主トレーニング内容

ぼくは毎日、クラブの練習のほかに、家で次のようなことをやっています。これについて、これはいらない、順番を変えたほうがよい、これをふやした方がよい、などのことがありましたら、指摘して下さい。

また、バックを強くするための良い方法がありましたら、教えて下さい。現在、ヒザが痛いので、走るのはさけています。

①ラケット8の字（1分×5、但し、あいだに15秒休み）②腕立て（20回）②屈身（50回、但し1分間で）④ビールびん振り（100回）⑤背筋（30回）⑥足あげ（30秒×5、但し、あいた10秒休み）⑦指立て（10回）⑧腹筋（50回）⑨ハンドグリップ（100回）⑩バック素振り（200回、バックが弱いので）⑪柔軟体操

お答えします。中学生がクラブの練習時以外に、帰宅してから自主的に自分で考えたトレーニングを実施していることは、非常に立派で、敬意を表します。このような努力が、やがてト杯、ユ杯につながるのだと思います。

家で体力づくりや補強的なトレーニングをやるのは大切なことです。もっとも、私は中学生のうちは〝基礎体力つくり〟のトレーニングを主にやった方がよいように思うのですが、体力的にも、時間的にも余裕があれば、補強的なトレーニングもよいでしょう。

さて、K君のトレーニング計画ですが、一般的に考えて、またK君がやっていることを加え、次のように組んでみました。

①ラケット8の字（左右、10回）②腕立て、指立てけんすい（10回）③上体そり（10回）④ビールびんヨコ・タテ振り回旋（各10回）⑤上体

おこし（10回）⑥腕立て脚前後出し⑦ジャンプバービー（10回）以上を2セット、7分ぐらいでやってみてはどうだろうか。

また、バックの強化法ですが、これはバックの技術にはいる以前に、握力、手首、腕のスピード、上体、からだ全体のひねりなど、部分的な補助トレーニングを自主的にやることが先決です。（日本協会指導委員会委員・遠井稔男）

定時制高校にも愛情を

私は都立定時制高校で初めてクラブにはいってプレーをやりましたが指導者がいないため、ついに〝羽根つき〟で終わりました。

しかし、以後も希望をすてることなく、現在では母校に指導にいったり、日曜には友人と近くのスポーツ開放校でプレーを楽しんでいます。

これまで本誌には、いろんな試合結果などが出ていますが、今後は年に二回行なわれる定時制大会のことも記事にとり上げて下さい。どの学校も指導者、練習時間、場所、さまざまな面でハンデを背負いながら、四苦八苦して、ささやかな大会の優勝を夢みて、精いっぱい努力しているのです。（東京・板橋　畑政治）

お答えします。あなたのように恵まれない環境にめげず、一生けんめいプレーに取り組んでいる人が大勢いることは、編集部としても、うれしく、また、たのもしく思います。

ト杯、ユ杯の選手になることだけがバドミントン・プレーヤーの目的ではありません。私どもは日本協会を督励して、今後はいわゆる〝社会体育〟の面にも、努力していくよう考えています。お申し出の点については、積極的に取り組むつもりです。

あなたの仲間や知り合いにも「バドミントン界」をどしどしひろめて下さい。（編集部）

◆生徒指導の資料充実を

私の勤務先きは山形県真室川高校で、47年度インターハイ開催地新庄市のすぐ近くにあり、その関係で、いま一生けんめいに指導に情熱をもやしています。本誌にのっていること以外で、生徒指導の資料などありましたら、お教え下さい。（山形県新庄市　小山清吉）

お答えします。ご存知のようにバドミントンの日本での歴史も浅いので、指導関係の資料となるものが、あまり豊富に出版されているとはいえません。そこで

①一冊の本としてまとまったものは、これまで本誌でも紹介している通りですが、その中では高校指導者に参考になるものとして「川端昇市・バドミントン入門」と「伊藤基記・バドミントン上達法」をあげることができます。

②日本協会の指導委員会で毎年、全国指導者研修会（本年は六月末）と全国高校合宿を行なっており、それは本誌でも、できるだけ取り上げておりますが、その議事録ともいうべき詳細な内容は、日本協会で分けてさしあげることができます。

③しかし、貴校における指導内容やレベルについては具体的にわかりませんので、一度、指導委員会（委員長・伊藤基記熊本女大教授）にご相談されたらどうでしょうか。（編集部）

◆個人で参加できる大会はあるか

個人で参加できるいろいろな大会および試合の日時、場所、資格などについて教えて下さい。

また、これまで本誌にはラケットのことが一度しかのっていません。その種類、性質、選択のしかた、向くプレーヤー等のことを、ぜひ扱ってもらいたいと思います。

そのほか、大学のクラブなどの練習内容や「第3号」にのっていた高坂選手のようなインタビューなどをどしどしのせてもらえたら、高校生にはありがたいものだと信じます。（東京・四方田裕）

お答えします。まず、個人で参加できる大会うんぬんですが、これは二つに分けて考えたいと思います。第一は、あなたが登録選手であるかどうかです。つまり、一定の登録料を払って、都道府県協会や日本協会に選手として登録しているのかどうか。または、高校生の場合なら、学校にクラブがあり、その所属の一員になっているかどうか、です。

このような場合は、必ず関係の協会などから、各種の大会についての連絡が来るはずです。

登録者でない場合は、組織を通じて知らせてもらえないので、ちょっと、やっかいです。しかし、東京ばかりでなく、どこの地方でも県民大会（市町村、区なども）や体育祭の一部としてバドミントン競技をやっていますので、もよりの区（市町村）教育委員会内の体育課（係り）に聞くのが一番てっとり早い方法です。

たいした金額ではないはずですから、なるべく地方協会への登録をおすすめします。登録のしかたは「第八号」の本欄に出ています。

つぎに、ラケット以下の問題ですが、ごもっともな要望なので、必ず紙面の上に反映するつもりです。（編集部）

【特別寄稿】沖縄の現状と問題点

本土との密接な交流を

コーチの不足が普及の問題点

琉球大マネジャー
比嘉鉦由

沖縄にバドミントン協会が正式に設立されてから、今年の十二月二十一日で、満十カ年を迎えます。

そして、十周年記念事業も、いろいろ計画されております。その中には（まだ内定ですが）〝人間の可能性と極限への挑戦〟と銘うって、本土の一流プレーヤー四名を招待して、そのすばらしいプレーを披露してもらうことも含まれているので、我々は、その実現をいまから心待ちにしております。

ともかく、バドミントンが当地に普及されてからはや十数余年になっているわけです。しかし、ぼくの見た限りでは、まだまだ道は遠く、努力が必要だと思われます。

なぜなら、現在、協会の下部組織を見ると高校のクラブ（6校で約百五十人）と琉球大（約三十人）沖縄大（八人）それに一般（約五十人）――これが全プレーヤーというていどだからです。

これに、中学校などもふくめると、いわゆる競技人口としては約五百人強になります。しかし、これは15歳―30歳の沖縄の人口を、およそ20万人とすると、そのわずか0・25％にしかならないのです。

また、これらのプレーヤーも体育館が足りないため、常時練習しているのは、ごくわずかです。那覇商高、首里高、琉球大各体育館の三つが〝柱〟であり、他の高校のクラブなどでは、教室とか講堂など、きわめて不利な条件下で、練習に励んでいるというのが実情です。

スポーツ界での地位も、さびしいことではあるが、まだまだ威張れるところまではいっていません。

しかし、ユーバー杯での日本の活躍、あるいは長崎国体での沖縄勢の大活躍（一般男子で佐賀、栃木を破りベスト16入り）などを通じて、ようやく明るい光がさし込んできました。

普及には、マスコミとの協力体制でもって、大いに人々にアピールすることが、いかに大切かを痛感しています。

このように、不利な条件下ではあるが、協会発足当時、すぐ沖縄体協に強引に加盟して以来、初代会長の宮島長純氏（沖縄女短大副学長）を始めとし、現在の稲福正輝会長、仲村寛一理事長、役員一同、そして下部組織会員の努力によって、家族的ふんい気の中で、地味ながら、着実に発展しています。

理事長自身がいっておられるように「少数精鋭主義に徹すれば実力は向上し、沖縄体協にもしめしがつくが、反面、普及がおろそかになる。普及に重点をおけば、実力向上がともなわない」

――ここに協会の一番の悩みがある。この原因は決定的にコーチ不足（現在二人）である。多ければ、二面性を同時に解決できるはずだから、です。

ついでに、日本協会へ要望したいことがあります。

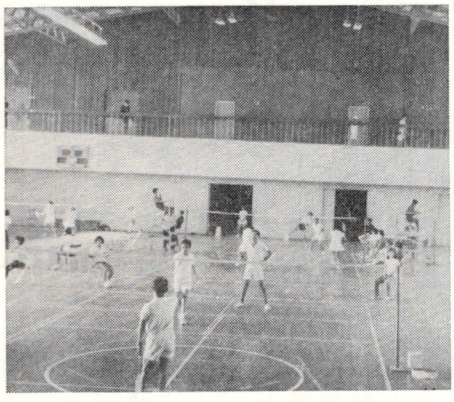
実力向上、普及、大衆へのアピールのためにも、本土との交流は絶対に必要です。それなのに、その機会は、現在、国体だけしかありません。本土からも沖縄に来るチャンスを、協会のご配慮で作ってもらいたいものです。

ぼくは協会の内部事情についてはわかりませんが、かって六七年に九州実業団の大会が沖縄で催されたことがあります。こうしたことも一つの方法ではないかと思うのです。あるいは、ユ杯、ト杯の合宿を沖縄でやるとか…。さらに、もっと沖縄協会との連絡、情報交換を密にしてもらいたい、と考えます。

主な年間行事を書き添えておきます。▼一月一日＝初打会▼一月中旬＝稲福祭▼三月下旬＝職域大会▼五月三日＝全沖縄総合シングルス選手権▼六月二十三日＝インターハイ予選▼八月中旬＝総合混合ダブルス選手権▼九月中旬＝総合団体戦▼十一月中旬＝沖縄体育大会▼十二月下旬＝総合ダブルス選手権



▲〝ミニ国体〟沖縄体育祭のバドミントンの部から。琉球大×中頭戦，向う側が琉大チームハチマキでがんばる。



▲総合団体戦から。手前の後姿が理事長，向う側抗議しているのは事務局長，パートナーは理事

桐生市商が連続の栄冠

関東高校　女子は真岡女10連勝

第十六回関東高校選手権大会は六月六、七の両日、茨城県水戸市のスポーツセンターで行なわれ、男子は桐生市商（群馬）が二連勝、女子は真岡女（栃木）が十連勝を飾った。参加は男子30校、女子35校。（記録詳報はレコード欄に）

▼男子決勝

桐生市商（群馬）　2―0　真岡工（栃木）

○野本　2（15―11）0　榎戸
大川　2（15―7）0　羽石
○小林　2（15―6）0　館野

ダブルスは第一ゲーム11―7と真岡がリードした。しかし、桐生は落着いて相手のミスをさそう、うまい試合運びで調子をとり戻して、以後は8ポイントを連取、逆転した。

第二ゲームは桐生が出足よく7―1とリードした。真岡のミスが目立ち、簡単に勝った。

シングルスは桐生のポイントゲッター小林、長身の館野の主将戦。準決勝で聖学院の永吉に2―1と辛勝している館野は、第一ゲーム後半から疲れが出たのか、小林はクリヤー、ネットとコートをうまく使い、相手のミスをさそってポイントをうばった。第二ゲームは小林が調子にのって11―1とし一方的だった。

▼女子決勝

真岡女（栃木）　2―0　甲府二（山梨）

○大貫　2（15―11）0　望月
池田　2（15―5）0　井上
○藤井　2（11―0）0　入倉

ダブルス第一ゲーム、真岡は固くなって動きが悪かったがスマッシュ力が甲府のレシーブ力を上回り、5―9から逆転。主将同士のシングルスは、真岡・藤井の動きが入倉を上回って相手にスキを与えなかった。（決勝評＝学連委員・中村一郎）



▲優勝して引きあげる桐生市商チーム
▼捜真女高は準決勝で敗退したが，そのあとすぐにミーティング



総評　男子は大方の予想どおり準決勝で桐生市商（群馬）×日大鶴ケ丘（東京）、真岡工（栃木）×聖学院（東京）シード校同士の対戦。

前者はこの大会の事実上の決勝戦。シングルスでは1対1と星を分けたが、ダブルスは一日の長ある桐生にがい歌があがり鶴ケ丘は昨年に続いての敗戦を喫してしまった。

一方、真岡工×聖学院は、聖学院の戦力が昨年よりも劣っているにもかかわらず、伝統の力というか、ここまでよく勝ち残った感があり、このカード真岡工が昨年の雪辱に成功した。

決勝はダブルスで接戦するのでは、との予想もあったが、一ゲーム前半のみで、あとは桐生の危げない勝利だった。

女子は、真岡の優勝が決定的とみられたため、興味は二位以下に焦点がしぼられた感があった。第二シードの前橋市女（群馬）は最初の試合（二回戦）で早くも敗退、地元・茨城勢の各所での善戦が目立った。

しかし、決勝は予想どおり甲府二（山梨）×真岡女（栃木）。甲府よく攻め、あわやの場面もあったが、最後の一、二ポイントで止まり、目に見えない〝真岡のカベ〟を感じさせた。

（小石川工高教・里見光徳）

ヘアピン

○…会場は梅で有名な偕楽園の近く、テニスコート、柔道場などもあり文字どおりのセンター。最終日の日曜には近隣の中高校生や親子づれで、のべ約千人の観客がスタンドを埋めた。隣りからテニスの選手や柔道着のままの少年なども見物「思ったよりすごいゲームだナ」

コートは八面あるが、カベとの間がせまく、またすべりやすいらしく、ころびながら回転レシーブまがいの〝ファインプレー〟も見られた。

○…女子10連勝の真岡女の遠井監督は、試合中でも「おい、なにやってるんだ」と選手を大声で叱りつける、こわい？　監督さん。対照的に甲府二の安田監督はにこにこ顔のソフトムード。「ただ胸を借りるのみ」といいながらも闘志を燃やしていた。

○…五年後、国体（バドは石岡市）を迎える地元茨城県。男子は谷田部一校の参加だったが女子は下館二が第二シード前橋女を破り、石岡二とともにベスト8入り。地元関係者は「まだまだだが、五年後はきっと」と胸を張っていた。

各地で第一線選手が〝コーチ〟にひと役

小島、本間選手が 新潟県下四市を巡回

今春の男子海外遠征コンビ、小島一平（ヨネヤマ・ラケット）本間順次（中大）両選手が、五月中旬、新潟県下を巡回コーチした。小島選手は「機会があれば今後もお役に立ちたい。それが、第一線でプレーするわれわれのつとめ」といっていた。

× × ×

地元出身で中大の後輩・本間君の協力を得て、五月十八日から二十一日まで新潟県下の四都市を回った。

最初は直江津。会場は日本スケンレス体育館。ここは最近、完成したばかりで、それと同時に、バドミントン・クラブも同好会的ムードから、本格的活動へ脱皮しようとしている矢先きだった。集まった部員約30人。第一線のプレーを見るのは皆初めてで、目をまるくしていた。

二日目が長岡市（会場・表町小学校）市内の高校10校ぐらいから男女約二百人が参加。三日目は三条市。中間試験前ながら、インターハイめざすトップレベルの選手約20人、OB4人が見えた。会場は厚生年金会館。一緒に練習した。

最後は新潟市。名門・青陵の学長さんも見えられた。ここでは主として模範試合をやった。本間君とのシングルス、本間君と組み、国体選手の大竹・伊藤組とダブルス。最後にユ杯代表の相沢・竹中組相手に男子×女子のダブルス。男と女とではスピード、パワーがちがうが、生徒のために、ラリーが続くようなゲームを心がけたら、1ゲームで5、6本とられた。

各会場でやったことは、エキシビションと技術的指導、短いお話など、だ。

相手が一回ごとちがうから、コーチのこまかい内容は省略させてもらうが、共通して話したのは、精神的な側面だ。

第一は、最近のクラブが〝仲よし同好会〟的になり、主将のリーダーシップや上下の規律などが薄れていることについて、注意した。

第二、試合前のコートでの乱打などについて。たとえば、相手にドロップの練習をさせ、自分がつっ立っているのはいけない。それを受けて動くべきだ。たとえ五分間でも試合に直結させることを考えたい。

第三、バテることを恐れるな。一日、一日、全力をつくして極限までやるべきだ。そうでないと、本当の体力はつかないし、これだ、というものは得られない。もし、それで敗れても悔いはないはず。骨惜しみするな。

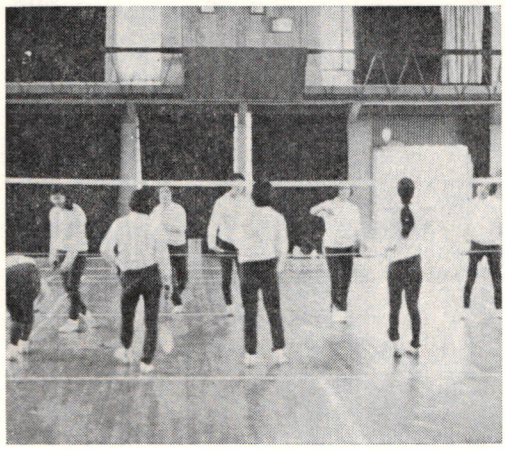
これに関連して、最近のプレーヤーが、しだいに横着なプレーをするようになってきた点をいましめた。これはシャトルが改良され、品質が向上したせいもあるだろう。

〝一日生徒〟たちからの質問も多かった。主なものは、外国のプレーやプレーヤーについて、バドミントンに対する考え方、社会人評価について…。

そして、できるだけ多く、この種の会をやってほしいという要望は、これまた驚くほど多かった。地方の人々は、みな熱心で、いいプレーを見ることにうえている。

（小島一平）

練習はラケットとシャトルになれることから▼



今後は 年間4回開催

近く公式試合も発足

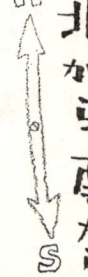
山梨県甲府市協会は、さる四月十八日、市体協と共催、市教委、市小中体連、山梨日々の後援を得て、中学生のためのバドミントン教室を開いた。

甲府市には中学校が九校あるが、公式の試合がないので、バドミントンをやっているのは、二、三校といわれる。当日は、うち四校から87人が参加した。指導にはト杯代表の秋山真男選手をはじめ、国体代表の窪田、野田選手、吉田高・保坂先生らが当たった。

参加生徒は、大部分、定期的な指導を受けており、ルールや練習法は、断片的に理解していた。公式試合開催に踏み切れるぐらいの力と判断した。さる四十年から、年二回、小中学校の先生ら指導者陣のための講習会をやってきたことの成果といえるだろう。

しかし、念のためバドミントンの歴史、ルール、ラケットの握り方など、基本的なことから始め、実技をやりながら基本ストローク各種をのみこませ、そのあと模範試合をやった。

生徒はいずれも、初めて一流プレーヤーのプレーを見てびっくりしていた。これだけでも成



▼秋山選手の話に聞き入る生徒たち



ト杯の秋山選手らが

甲府……初の中学校教室

果があったと思う。

協会としては、今後、年四回（4、6、8、10月）段階的に教室を開き、普及強化をはかる計画。市協会の原二三雄会長も「思ったより多くの人がバドミントンに親しんでいることがわかってうれしい。さいわい、市協会には若い指導者が多数いるので、充分に活用し、意欲的な指導をしていきたい」と喜んでいた。

また、参加者にも好評。市立北中・奥石先生は「当校では七十人ぐらいの部員がいて、部活動も定期的にやっており、本やルールブックを見て研究している。しかし、比較的、新しいスポーツだけに、競技経験者もおらず、練習方法などについても、これでよいのか、と疑問をもつことがあっても、解決の方法がなかった。こういう機会に恵まれ、生徒ばかりでなく、よい勉強ができてうれしかった。今後、公式試合を含めて、この種の催しをどんどんやってほしいものだ」とのべている。

期待にそむかぬよう、市協会役員一同、張り切っている。

（甲府市協会・遠藤真男）

後藤手選らも講習会

定時制高校教員指導に汗流す

北から南から N S

小島、本間選手らが巡回にまわった前後、新潟では、名門高・新潟中央高の五十嵐明美先生、ユ杯代表の後藤和子選手（新潟電話局）らが講師となって二度にわたり講習会が開かれた。

第一回は五月十五日、高田市の高田南城高（定時制）、第二回は同二十日、新潟市の市立工高で。

対象となったのは、ともに定時制高校の教師。定時制では生徒が夜間の勉学の中でスポーツ活動も行なうというハンデを背負っているが、本号の〝読者の広場〟欄にもあるように、みな一生けんめいだ。

しかし、なにぶんにも、バドミントン競技は、この世界では〝新しいスポーツ〟。指導者も少なく、いや、むしろ競技を知っている指導者は、ほとんどいないのといわれている。

そこで新潟県では、生徒のクラブ活動をさかんにするには、まず指導者づくりから、と、いうことになったもの。

× × ×

講習会には、のべ約五十人の先生方が参加した。クラブの顧問をしている人が圧倒的だったが、プレーそのものを、よく知っている人は少なかった。

このような実情は予測されたので、われわれは、本文たった11ページながら〝バドミントン早わかり〟とでもいうべきテキストをつくった。

内容は競技の特徴、施設と用具、試合の進め方とルール、基本相なストローク、練習の要点と簡単なトレーニング、そして審判のやり方など。

これをもとにして午前約二時間を講義と質疑、午後二時間を模範試合と実技、審判の実習などに当てた。

先生方は、みな熱心に聴講し競技自体に、かなりの興味を持ってくれた。反面「意外にむずかしい」との声もあり、さらには、競技の経験がないところから「ネットの白帯にシャトルが静止した場合はどうする」「同時に反則をした場合の処置は」「インターフェアの限度について」等、想像から出てくる質問も、かなりとび出した。

特徴的だったのは〝定時制〟というワクの中で、短時間に最大効果をあげるための方法について質問が集中したこと。

また「われわれのように、実技経験のないものが、やはり初めての生徒に指導する場合、何をどう教えたらいいか自体に迷う」という切実な声もあった。

せっかくの機会ながら、時間が足りず、話がまとまらなかったのでは、と反省している。経験のない〝指導者〟を指導することのむずかしさを、第一に痛感した。

自分たちの不勉強もあるが、これはどうやら自分自身プレーヤーであることに原因があるらしい。つまり、われわれの場合は技術的（身についた）ものが優先し、ルール一つにしても実感で理解しているため、いざ説明するとなると、理論立てて話ができないのでは、ということだ。

これが強化合宿や単なる技術指導の場合なら、プレーヤーの体験をそのまま伝えるだけでもすむのだが…。とにかく勉強させられた二日間だった。

今後、県協会は指導部を中心に、中学生を対象とした技術指導を日曜日ごとに開く計画である。

（五十嵐明美、後藤和子）

ア大会代表は社会人大会を参考

新設の競技力向上委が動き出す

新設の日本協会競技力向上委員会（川端昇市委員長）が、ようやく本格的活動を始めた。

この委員会は、文字どおりプレーヤー、とくに、トップ・クラスの選手強化を担当するもので、委員には、第一線指導者、現役の一部をふくむ、かってのトップ・プレーヤーが顔をそろえている。

会議は、これまで三度開かれ、まず顔合わせのあと、四月十一日、五月十六日の二日にわたり、ト杯・海外遠征の〝収穫と反省〟を論議した。

このほか、国際試合の代表選手選考や派遣基準などについて基本的な考え方をまとめた。具体的な選手強化の方策は、海外派遣についての方針とからめ、今後、精力的に検討される予定になっている。

これまでに決めたこと、論議したことは、大体、つぎのようである。

【1】組織と委員会の業務についての考え方

①組織と運営法、仕事の分担については、試案が出たが、まだ検討する。

②主たる業務は、強化合宿の年次計画、強化選手の指定と指導、優秀選手の国際交流、このための参加（候補）選手役員などの推薦、コーチ・トレーナーらの養成。――などを受け持つ。

【2】各種国際大会への代表選手選考方法について

①アジア大会（12月、バンコク）社会人選手権の成績を選考の参考資料とする。

②国際学生選手権（8月、シンガポール）開催要項そのものが不明だが、調査の上、選考競技会を六月二十六日に東京で行なう。役員はその後に決める。

③日韓高校大会（8月18日から22日、ソウル）日本体育協会の方針どおり、全国高校選手権の男子優勝チーム（役員一、選手六人）を送る。ほかに日本協会負担で役員一人を派遣する。

④原則的な選手選考基準は、
○選考競技会　○過去の実績と成績　○当年度成績　○将来性
も加味した推薦――を参考にするが、このために以上を盛り込んだ具体的基準を成文化する。

【3】その他

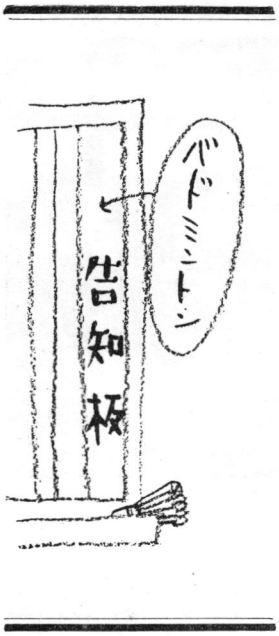
①全英等、今春の海外選手派遣のさい、湯木、高木が負傷したことにかんがみ、選手の健康状態の把握、傷害保険の施行、トレーナー同行などについて、充分、考慮することにした。

また、選手の推薦時期をできるだけ早め、年末の全日本総合選手権後にも決める努力をするよう申し合わせた。

②ト杯について小宮監督、全英等の海外遠征について高木、天野委員から報告があった。

しかし、その内容を資料として、今後の選手強化にどう生かすか、の点については、今後に持ち越された。

報告の内容は、すでに本誌「バドミントン界」に掲載したとおりである。



インドネシアが四度目の栄冠

＝ト杯決勝＝　マレーシアをくだす

第八回トマス杯はインドネシアが圧勝、第四―六回の三連勝についで六年ぶり四度目の王座を獲得した。

インター・ゾーンは、五月三十日から選手権国マレーシアの首都クアラルンプールで開かれた。マレーシアはデンマークをインドネシアはカナダに完勝しアジアの二大強国同士が決勝を争った結果、ハルトノの活躍でインドネシアが楽勝した。

◆インター・ゾーン準決勝

インドネシア 5―0 カナダ
マレーシア 5―1 デンマーク

◆同決勝

ネシア 7（単4―1 複3―1）2 マレーシア
インド

▼第一日

○ハルト 2（15 12 17 ― 3 15 16）1 グナラ ノ ン
○ムルヤ 2（15 15 ― 5 5）1 ラーマ ジ ン
○ハルト ノ、グナワン 2（15 15 ― 11 9）0 T・A・ハン、U・T・ワイ
インドネシア、ラトノ、ミンタルジャ 1（10 15 7 ― 15 13 15）2 グラナ ン、U・B・ビー

▼第二日

○ムルヤ ジ 2（15 15 ― 5 9）0 グラナ ン
○ハルト ノ 2（15 15 ― 2 12）0 ラーマ ン
ダルマ ジ 0（12 12 ― 15 15）2 T・A・ハン○
○ハルト ノ、グナワン 2（15 17 9 ― 6 16 15）1 U・B・ビー、グナラン
インドネシア、ラトノ、ミンタルジャ 2（15 18 10 ― 10 16 15）1 T・A・ハン、U・T・ワン

日本協会指導委員会が

全国の底辺活動調査

日本協会の指導委員会は六月初旬、全国指導者研修会の重要研究資料にするため、各都道府県協会あて「バドミントンの底辺普及度」の調査アンケートを依頼した。

バドミントンの競技人口（愛好者）は、ひと口に三十万とも百万ともいわれているが、日本協会登録者はわずかに約一万五千人。いわゆる高校以下のプレーヤーや市町村などの民間クラブ、団体がどのようになっているかは、この登録問題が障害となり今日まで〝雲をつかむような〟状態となっている。

指導委員会は、今後、底辺の普及拡大、指導者の養成等に活動の重点を置くことになっており、今回のアンケートは、その活動の一環。データが集まれば、底辺の状況と、今後の問題に大きな役割りを果すものと見られる。

本誌では、その結果がまとまりしだい、紙上に公表して、全国の愛読者にお知らせする計画である。

アンケートの質問事項はつぎのとおり。

【1】高校について①部（クラブ）を持っている高校数②県大会以上に出場する高校数③体育の授業にバドミントンが含まれている高校数

【2】中学について①部（クラブ）を持っている中学数②県内大会に出場する中学数③体育の授業にバドミントンが含まれている中学数

【3】小学校について①クラブを持つ学校数②体育の時間にラケット遊び的なものをさせてくれる先生のいる小学校数

【4】県（市町村）教委などのバドミントンへの協力体勢

【5】市町村に少年少女のクラブがあるか

【6】少年少女むけの講習会が開かれているか

× × ×

★山口県協会　役員改選で会長・市河八五氏が退き、新会長に林義郎氏（衆院議員）が就任した。

また事務局所在地が次のように変わった。

下関市彦島西山町下関市立玄洋中学校内（担当者・津守幸介）

★香川県協会　事務局が左記の通り変更になった。

高松市楠上町一の九の一〇、東条義昭方（電話）高松３２局３７３３

★神奈川県実業団連盟役員

▼会長＝古沢速男（日立戸塚）

▼副会長＝村瀬隆国（三菱重工横浜）大山茂（横浜市役所）

▼顧問＝塚原錫雄（いすゞ自動車）上杉光芳（三菱重工横浜）金子幸男（同）

▼理事長＝田中康之（日立戸塚、全日本実業団連盟常務理事）

▼常務理事＝遠藤哲治（日本鋼管）池田昌弘（関東自動車）塚本昌義（神奈川県庁）桜井光雄（東芝）畠山正義（いすゞ自動車）田村政己（石川島播磨）鈴木雅勝（日立戸塚）

土方充（横浜市役所）小林敬子（日本コロムビア）古川昌彦（日本石油）鈴木勝之（三菱重工横浜）上川章（日産自動車）長瀬正敏（日本石油）吉田那男（日立戸塚）

▼事務局所在地＝横浜市戸塚区戸塚町２１６（〒２４４）日立製作所戸塚工場生産管理部、鈴木雅勝方（電）横浜８８１局１２２１、内線２８３

× × ×



早わかり競技規則
ルール100問？

連載⑧

日本教職員連盟
審判部監修

4. シャトルとネット
（規則第4条）

問38　第図に「尻革」というところがありますが、一寸変な名前ですね。

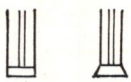
答　尻革は一番お尻についているので、そう呼ぶのでしょう。尻皮と書かないで下さい。生きている皮膚でなく、なめした革ですから。靴も鞄も革へんですね。

この尻革は、名称はおかしいですが、ラケットとしては大変大切な部分です。段々、技術が進んでくると、プレーヤーは自分のプレーに合った尻革をわざわざ製造業者に注文したり、苦労して自分で作り直したりするものです。ある程度以上のプレーヤーなら、その人のラケットの尻革の形を見れば、そのプレーぶりやら戦法までわかるくらいです。

昔の世界選手権者でいいますと、マラヤ（今のマレーシア）のオン・ポー・リムやタイ国のチャロン・ワタナシンは①型です。そして、マラヤのウイ・ティ・ホックやテー・キュー・サンは②型のものを使っています。日本の上級プレーヤーがそこまで考えてやっていますかどうかですかね。

いずれにしても、プレー中、尻革がずれてきたり、尻革を止めた小釘で、掌がこすれたりはしないように気をつけることです。

ラケットの尻革



①　②

問39　ラケットの検定会もあるそうですね。

答　ええ。日本バドミントン協会は昭和37年から、ラケットの推選制度を設け、審査会を開くようになりました。競技規則に規格がうたっていないのですから、検定したり、検定合格と発表したりするわけではありません。審査の結果、よいものを推選するのです。いちょうの部分に「日本バドミントン協会推選」のマークがあるはずですから、このラケットを買えば安心ですね。

5. プレーヤー
（規則第5条）

問40　プレーヤーと競技者とは同じ意味ですね。

答　そうです。競技規則ではプレーヤー、大会運営規定では競技者となっています。全く同じ意味です。競技規則には、プレーヤーとは競技に参加するすべてのものをいう、と書いてありますね。

問41　「インサイド」とか「アウトサイド」とかいう言葉がありますが、シャトルがラインの外へ落ちたり、中へはいったりした場合のコールと間違えないでしょうか。

答　シャトルの落下の判定は「イン」とか「アウト」とかコールします。プレーヤーが、サービス権をもっているかどうかについては「インサイド」「アウトサイド」といいますから、区別できます。大体「サイド」というのはネットを境にして、それぞれの側にあるプレーヤーのことを示すのです。ちょうどネットを境にして、それぞれの地域を「エンド」と呼ぶのと対照的ですね。

問42　ダブルスの場合は各側二人ずつ、シングルスは各側一人すつ、と書いてありますが、一人と二人で試合することや、三人すつでやることはないんですか。

答　ないことはありません。その場合のサービスの順序なども決まっているようですが、正式の試合ではないのです。

そのほか、女子が男子と試合することも正式にはありません。混合ダブルスでは男子と女子が組みますが、対手も混合でなければなりません。

正式の試合は男子単、女子単、男子複、女子複、混合複の五種目です。

問43　パートナーという意味は？

答　ダブルスで組んでいる味方同士のことです。ダブルスの一組の二人を「ペア」ともいいますが、ペアの中の一人は、もう一人のパートナーなのです。ここでは「相手」と書くことにします。

試合で戦う、ネットの向う側のプレーヤーは、オポーネント（opponent）といいますが、これは「対手」と書いて区別することにしましょう。

★　★　★　★

ルールブックのお申し込みについて

「ルール100問」の原本である「バドミントン・ハンドブック」の第一編＝競技規則10問集（付NBA現行競技規則）を、つぎの要領で発売しています。

体裁はA5版60ページ。定価百八十円（送料別）ただし10部以上まとめて申し込んでいただければ、取り扱い費として一部につき三十円を割り引きます。選手、指導者、愛好者心携の書として、ぜひ一冊、お手元に置くことを、おすすめします。

◉申し込み＝東京都練馬区旭ケ丘一の五一（〒176）日本教職員バドミントン連盟・前田耕作あて

◉代金払い込み＝三菱銀行江古田支店、日本教職員連盟・前田耕作

公　　告

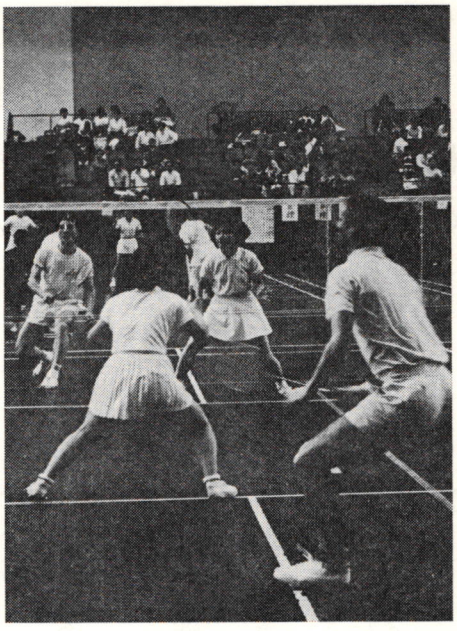
日本バドミントン協会では総会の決定に基き、昭和45年度の協会検定、審査合格および協会推奨の用具を、本欄のように決めましたので、ここにお知らせします。

昭和45年４月１日

日本バドミントン協会

昭和45年度日本バドミントン協会審査合格用具推奨用具

ラケットの部	銘柄名	会社名	摘要	ウェアーの部	銘柄名	会社名	摘要
	ラッキーセブン張上（#7）	株式会社ヨネヤマラケット			(男子)#106ショートパンツ	株式会社ヨネヤマラケット	
	スリーエート張上（№8）	〃			(男子)#107シャツ	〃	
	クインハートフレーム（#1,000）	〃			(男子)#105ショートパンツ	〃	
	カレッヂエイトフレーム（#3,000）	〃			(男子)#108シャツ	〃	
	カレッヂエイトデラックスフレーム（#4,000）	〃			(女子)#203ミニスカート	〃	
	ファイブエースフレーム（#5,000）	〃			(女子)#204シャツ	〃	
	ファイブエースデラックスフレーム（#6,000）	〃			(女子)#202ミニスカート	〃	
	レディエースフレーム（#6,500）	〃			(女子)#205シャツ	〃	
	アルミナエースフレーム（#7,000）	〃			(女子)#200スカート	〃	
	アルミナエースデラックスフレーム（#8,000）	〃			(男子)#104ショートパンツ	〃	
	キングダイア（#2,000）	〃			(男子)#109シャツ	〃	
	コールドキング	株式会社諸江製作所			(女子)#206シャツ白	〃	
	ダンロップ	〃			(男子)№500 リースバドミントンシャツ	河崎ラケット工業株式会社	
	キングクリッパー	〃			(男子)№533 リースバドミントンショートパンツ	〃	
	キングメイト	〃			(女子)№500 リースバドミントンシャツ	〃	
	シルバーデラックス	〃			(女子)№592 リースバドミントンスカート	〃	
	ハイ・スピード（№2）	大阪合繊株式会社			チャンピオンバドミントンシューズ	〃	
	ハイ・トーマス（№3）	〃		シューズの部	バドミントンシューズ	株式会社ヨネヤマラケット	
	フィアレス（№10）	〃			アタックシューズ	株式会社諸江製作所	
	フェニックス・インペリアル（№30）	〃			アタックデラックス	〃	
	エクセレント（T-1）	〃					
	ブルーリース（№B-6P）	河崎ラケット工業株式会社					
	エバーウィン（№206）	〃					
	カアルトンオールスチールラケットスリーポイントセブン	日本カアルトン株式会社					
	№8 ウィンナー	株式会社トヨダスポーツ					
	№1,000 ニューミニ	〃					
	№3,000 ブルー	〃					
	№4,000 アルバート	〃					
	№5,000 ニューアルバート	〃					



◎第13回全日本社会人選手権大会（5月3日―5日・千葉市千葉県営体育館）

◆男子シングルス　▼三回戦

小島一平（神奈川）2―0落合孝之（東京）、森芳夫（岐阜）2―1牛島秀雄（愛知）、安沢武司（愛知）2―1金原良史（岩手）、坂本聖二（神奈川）2―1池田信孝（富山）、竹原茂（大阪）2―0早川博（茨城）、遠藤啓治（神奈川）2―0長谷川敏彦（愛知）、鈴木勝之（神奈川）2―0樋口一春（愛知）、星野義昭（東京）2―1三宅勝（岡山）、鈴木健二（東京）2―0和田泰寛（大阪）、杉田博（神奈川）キケン品川勝男（大阪）、遠藤和男（大阪）2―0黒崎二男（東京）、工藤勇参（熊本）2―0平井克明（埼玉）、渡辺直人（神奈川）2―0河田満（岐阜）、伊村隆（愛知）2―0森谷喜久夫（東京）、吉田邦男（神奈川）2―0小林一宏（愛知）、堺栄一（東京）2―0田中康二（千葉）

▼四回戦

小島 2（15―15―6―5）0 森
坂本 2（15―15―8―4）0 安沢
遠藤 2（15―17―11―14）0 竹原
鈴木（勝）2（15―15―11―8―18）1 星野

▼準々決勝

鈴木（健）2（15―15―4―10）0 杉田
工藤 2（15―15―4―6）0 遠藤
渡辺 2（15―15―9―10）0 伊村
堺 2（15―15―4―0）0 吉田
小島 2（15―15―2―11）0 坂本
鈴木（勝）2（15―15―2―7）0 遠藤
工藤 2（15―15―12―12）0 鈴木（健）
堺 2（15―15―3―9）0 渡辺

▼準々決勝

小島 2（15―15―15―5）0 鈴木（勝）
堺 2（18―15―16―10）0 工藤

小島選手は三連勝

▼決勝

小島 2（15―15―4―6）0 堺

◆男子ダブルス　▼三回戦

堺関（東京）2（15―15―2―8）0 遠藤・大塚（大阪）
杉坂本田（神奈川）2（15―15―10―5）0 松午島島（愛知）

▼準々決勝

堺・関組は二連勝

堺関 2（15―15―2―14―18）1 河森田
河森田 2（15―15―12―12）0 樋口伊村
堺関 2（15―2―15―7―15―2）1 星森谷野
河森田 2（15―11―15―5―15―12）1 池田木
伊藤 2（15―8―17―13―15―14）1 平井落合
星森谷野 2（15―15―7―6）0 中山本山
堺関 2（18―15―13―10）0 坂本田
河森田 2（15―11―2―10）0 川津浦（東京）
鈴木・田中 2（15―10―7―10）0 近藤坂（東京）
伊藤・村口 2（15―15―11―8―17）1 鈴木渡辺（神奈川）
落合・井平（東・埼）2（15―15―4―8）0 芦原工（熊本）
星森谷野（東京）2（15―15―0―4）0 柴乙田武（北海道）
山本・山中（東京）2（17―15―14―6）0 福田川早（茨城）

▼決勝

堺関 2（15―14―2―12―18）1 河森田
河森田 2（15―15―12―12）0 樋口伊村
堺関 2（15―2―15―7―15―2）1 星森谷野
河森田 2（15―11―15―5―15―12）1 池田木

◆女子シングルス　▼三回戦

太田節子（愛知）2―0中台優子（千葉）、細田芳子（群馬）2―1大竹由里子（兵庫）、篠山和江（兵庫）2―0中塚操（神奈川）、相沢マチ子（新潟）2―0及川恵子（岩手）、天野博江（岐阜）2―0辻田京子（愛知）、柿本彰子（長崎）2―0伊藤しげ子（東京）、小沢八重子（愛知）2―1徳永澄子（熊本）、綾井美津子（香川）2―0原百々代（兵庫）、柿本房子（大阪）2―0沢田光子（富山）、杉田良子（神奈川）2―0岡崎繁子（京都）、大橋美知子（愛知）2―0児玉祥（兵庫）、山本登喜子（大阪）2―0高橋節子（東京）、竹中悦子（新潟）2―0奈良岡千知子（神奈川）、橋本香代（愛知）2―1山下三枝子（京都）、土井治子（東京）2―0高橋ひさ江（群馬）

▼四回戦

太田 2（11―11―2―4）0 細谷
相沢 2（11―11―6―5）0 篠山
天野 2（11―11―7―7）0 柿本
小沢 2（11―11―6―5）0 綾井
杉田 2（11―11―6―8）0 柿本

大橋 2 1111 7 4 0 山本
竹中 2 1111 2 7 0 橋本
福永 2 1111 7 6 11 1 土井
杉田 2 1111 4 2 11 1 大橋
天野 2 1111 1 5 0 小沢
相沢 2 11 7 11 2 1 太田

▼準々決勝

奈川）、綾井・山本（香川）2―0大竹・児玉（兵庫）、竹中・相沢（新潟）2―0大橋・辻田（愛知）、金子・竹中（愛知）2―0土井・櫛毛（東京）、岡崎・永井（京都）2―0原・長町（兵庫）

池田 2 1515 8 9 0 上野 太田
篠山 2 1515 5 11 0 後藤 天野
永井 2 1515 7 5 0 山下 井本
竹中 2 1515 6 7 0 篠山 山田
相沢 2 1515 3 7 0 中塚 鈴木
安金 子沢 2 1515 3 3 0 清水 柴田
鈴木 津久 2 1515 3 7 0 中塚 鈴木

▼準々決勝

池田 2 1515 8 9 0 上野 太田
篠山 2 1515 5 11 0 後藤 天野
永井 2 1515 7 5 0 山下 井本
竹中 2 1515 6 7 0 篠山 山田
相沢 2 1515 1 1 0 山崎 下崎
岡井崎 2 5 11 5 12 1115 0 竹金 中子

▼準決勝

相沢 2 1111 4 1 0 天野
竹中 2 1111 6 1 0 杉田
竹中 2 1111 3 0 0 福永
杉田 2 1111 9 11 4 2 1 大橋
天野 2 1111 1 5 0 小沢
相沢 2 11 7 11 2 1 太田

▼決勝

竹中 2 1112 8 11 7 9 1 相沢

竹中選手は初優勝

◆女子ダブルス ▼三回戦 上野・太田（愛知）2―0引地・柿本（長崎）、池田・篠山（兵庫）2―0渡辺・岡本（北海道）、天野・後藤（岐、新）2―0山本・高橋（東京）、永井・山下（京都）2―0杉田・中塚（神

◆混合ダブルス

▼二回戦

▼準々決勝

森谷 奈良岡 2 1515 9 5 0 小林
堺 天野 2 1515 4 7 0 堀橋 本
杉田 杉 2 1815 15 0 0 武田 大橋
長谷川 上野 2 1515 6 12 0 佐藤 田口
吉奈良岡 2 17 3 15 14 15 12 1 牛島 太田
星井門野 2 1515 4 2 0 面川 青柳
金安 子沢 2 1515 6 9 0 鈴久 木津
星土井野 2 1515 4 4 0 奈良岡 吉田
森奈良岡 2 1515 5 4 0 上長谷川 野
堺天野 2 1515 3 6 0 杉田 杉田
金安 子沢 2 1515 12 5 0 奈森良 岡谷
堺天野 2 1515 7 9 0 金沢 子

★ ★ ★

堺・天野組は初優勝

▼準決勝

▼決勝

▼30歳シングルス準決勝

遠藤（神奈川）2 1515 7 2 0 佐伯（愛媛）
鈴木（秋田）2 1515 11 5 0 奥村（石川）
鈴木 2 1515 5 10 0 遠藤

▼同決勝

鈴木選手は初優勝

▼30歳ダブルス二回戦

北野 宝来（大阪）2 1515 6 1 0 五本木 川田
星井門野（東京）2 1515 4 2 0 面川 青柳（群馬）

▼準決勝

井星門野 2 1515 7 7 0 宝来 北野
杉遠藤田（神奈川）2 1515 0 0 0 徳重 佐藤
浜佐伯（愛媛）2 1515 7 8 0 福河 井崎（東京）

▼決勝

井星門野 2 1517 12 14 0 遠杉藤田 藤田
遠杉藤田 2 1515 0 1 0 佐浜伯中 伯中

星野・井門組は初優勝

▼40シングルス準決勝

毛利（岡山）2 1515 3 0 0 森脇（東京）
浜中（愛媛）2 1515 2 1 0 山上（岡山）

▼50歳シングルス準決勝

伊藤（熊本）2 1515 5 1 0 上口（東京）
久代（京都）2 1515 4 12 0 社（岡山）

▼決勝

伊藤 2 1515 0 1 0 久代

伊藤選手は五連勝

▼50歳ダブルス一回戦

上口（東京）2 15 18 3 9 16 15 1 広野（京都）
中上口 山 2 1515 5 10 0 伊藤（熊本）社（岡山）

上口・中山組は初優勝

▼決勝

毛利 2 1515 2 7 0 浜中

毛利選手は四連勝

▼40歳準決勝

毛利山 上 2 1515 6 6 0 山崎（岡山）佐藤（光）（東京）
権田森（東京）脇 2 1515 4 1 0 高橋河辺（千葉）

▼決勝

毛利山 上 2 1515 5 3 0 権田森脇

毛利・山上組は三連勝

◇関東大学春季リーグ戦（5月1日―24日、東京・目黒区体育館ほか）

【男　子】

◆一部

法政大 7 (単4―0 2 複3―0) 2 日本大
中央大 9 (単6―0 0 複3―0 0) 0 立教大
早　大 6 (単4―2 3 複2―1 2) 3 関東学
法政大 9 (単6―0 0 複3―0 0) 0 関東学
中央大 5 (単2―4 4 複3―0 4) 4 日本大
早　大 6 (単4―2 3 複2―1 3) 3 立教大
法政大 7 (単5―1 2 複2―1 2) 2 立教大
中央大 7 (単6―0 2 複1―2 0) 2 早　大
日本大 5 (単3―1 3 複2―1 3) 4 関東学
早　大 5 (単3―1 3 複2―1 3) 4 法政大
法政大 5 (単3―1 3 複2―1 3) 4 中央大
日本大 7 (単5―1 1 複2―1 1) 2 立教大
中央大 9 (単6―0 0 複3―0 0) 0 関東学
法政大 9 (単6―0 0 複3―0 0) 0 関東学
関東学 5 (単3―1 1 複2―1 1) 2 立教大

	関	大	立	日	早	中	法	勝	敗	順
関東学		9―0	○	○	○	○	○	4	1	②
大　東	0―9		9―0	○	○	○	○	4	1	①
立　教	○	0―9		6―3	○	5―4	○	4	1	③
日本大	○	○	3―6		7―2	○	5―2	2	3	④
早　大	○	○	○	2―7		4―5	×	1	4	⑤
中央大	4―5	○	2―7	5―4	○		0―9	0	5	⑥
法政大	×	4―5	×	○	2―7	0―9		0	5	

順位の決定は①勝敗②ポイント数③ゲーム数による。

◆二部

青学大 6 (単3―0 0 複3―0 0) 0 明治大
日体大 9 (単6―0 0 複3―0 0) 0 千葉大
慶応大 7 (単5―1 1 複2―1 1) 2 明学大
青学大 7 (単4―0 2 複3―0 2) 2 明学大
日体大 7 (単4―2 2 複3―0 2) 2 慶応大
慶応大 5 (単3―1 3 複2―1 3) 4 千葉大
明治大 6 (単4―1 2 複2―1 3) 3 明学大
日体大 9 (単6―0 0 複3―0 0) 0 明治大
青学大 6 (単3―0 0 複3―0 0) 0 明治大
青学大 6 (単5―1 3 複1―2 1) 3 慶応大

日体大 12 (単8―0 0 複4―0 0) 0 明学大
千葉大 5 (単3―1 3 複2―1 3) 4 明治大
日体大 5 (単3―0 2 複2―2 0) 2 青学大
慶応大 5 (単3―1 3 複2―1 3) 4 明治大
千葉大 5 (単4―2 4 複1―2 2) 4 明学大

◆三部（男子）

（第一日目）
一橋5―4東大　成蹊8―1電大
神大6―3学芸　成蹊7―2東大
（第二日目）
一橋5―4学芸　成蹊5―4神大
神大6―3電大　東大5―4学芸
（第三日目）
一橋4―5成蹊　神大6―3東大
電大6―3学芸　東大6―3電大
（第四日目）
一橋2―7神大　成蹊8―1学芸
（第五日目）
一橋4―5成蹊　神大6―3東大
電大6―3学芸　東大6―3電大
（第一日目）
東工8―1武蔵　都立7―2国士
専修2―7大東　東工3―6大東
都立9―0武蔵　国士1―8専修
（第二日目）
東工5―4国士　都立2―7専修
武蔵0―9大東
（第三日目）
東工2―7専修　都立1―8大東
武蔵1―8国士
（第四日目）
東工6―3都立　専修8―1武蔵

◆四部（男子）

（第一日目）
東工8―1武蔵　都立7―2国士
専修2―7大東　東工3―6大東
都立9―0武蔵　国士1―8専修
（第二日目）
東工5―4国士　都立2―7専修
武蔵0―9大東
（第三日目）
東工2―7専修　都立1―8大東
武蔵1―8国士
（第四日目）
東工6―3都立　専修8―1武蔵

国士0―9大東

◆五部（男子）

（第一日目）
農工4―5国学　東経6―3学習
東海5―4理科　農工1―8学習
東経3―6東海　国学4―5理科
（第二日目）
農工1―8理科　東経6―3国学
東海5―4学習　東経7―2理科
農工2―7東海　国学3―6学習
（第三日目）
農工2―7東経　国学2―7東海
理科4―5学習

◆六部（男子）

（第一日目）
市大4―5高経　国大7―2武工
成城3―6山梨　市大2―7山梨
国大7―2高経　成城6―3武工
（第二日目）
市大7―2武工　国大6―3成城
高経3―6山梨
（第三日目）
市大3―6成城　国大4―5山梨
高経5―4武工
（第四日目）
市大2―7国大　成城6―3高経
武工1―8山梨

◆七部（男子）

（第一日目）
東洋6―3玉川　立正3―6都留
埼玉4―5宇都
（第二日目）
電機6―3玉川　立正4―5埼玉
東洋5―4都留　独協9―0電機
宇都6―2玉川　都留3―6埼玉
（第三日目）
電機2―7立正　東洋1―8宇都
都留6―3玉川　独協8―1埼玉
ビ電機2―7東洋　立正1―8宇都
（第四日目）
独協9―0玉川　埼玉7―2電機
都留1―8宇都　独協8―1都留
立正6―3玉川　宇都8―1電機
（第五日目）
独協8―1宇都　埼玉7―2玉川
立正4―5東洋　独協6―3立正
電機3―6都留　埼玉6―3東洋
独協9―0東洋

【女　子】

◆一部

日女体 3 (単2―1 1 複1―1 1) 2 東女体
青学大 5 (単3―0 0 複2―0 0) 0 昭和女
青学大 5 (単3―0 0 複2―0 0) 0 東女体
日体大 5 (単3―0 0 複2―0 0) 0 昭女大
日女体 5 (単3―0 0 複2―0 0) 0 昭和女
青学大 3 (単2―1 1 複1―1 1) 2 日体大
日体大 3 (単2―1 1 複1―1 1) 2 日女体
東女体 4 (単3―1 0 複1―1 0) 1 昭和女
日女体 4 (単3―1 0 複1―1 0) 1 青学大
日体大 5 (単3―0 0 複2―0 0) 0 東女体

（注）国士館大は棄権

	士	女	昭女	東女	女日	体日	学青	女日	青学	日体	東女	昭女	国士	敗	勝	順
士		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	0	5	①
女	キ		キ	キ	キ	キ	キ	キ	キ	キ	キ	キ	キ	1	4	②
昭女	キ	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	1	4	③
東女	キ	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	1	4	④
女日	キ	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	1	4	⑤
体日	キ	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	1	4	⑥
学青	キ	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○	0	5	⑦
女日	キ	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	1	4	⑧
青学	キ	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	1	4	⑨
日体	キ	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	1	4	⑩
東女	キ	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	1	4	⑪
昭女	キ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	1	4	⑫
国士	キ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		1	4	⑬

◆二部

杉野女 4 (単3—0 1 / 複1—1 1) 明学大
千葉大 3 (単2—1 1 / 複1—1 2) 慶大
学芸大 5 (単3—0 0 / 複2—0 0) 共立女
杉野女 3 (単2—1 1 / 複1—1 2) 共立女
千葉大 5 (単3—0 0 / 複2—0 0) 明学大
学芸大 3 (単2—1 1 / 複1—1 2) 慶大
杉野女 4 (単3—1 0 / 複1—1 1) 慶大
学芸大 3 (単2—1 1 / 複1—1 2) 千葉大
明学大 3 (単2—1 1 / 複1—1 2) 共立女
学芸大 3 (単2—1 1 / 複1—1 2) 杉野女
千葉大 4 (単2—1 1 / 複2—0 1) 共立大
明学大 3 (単1—2 0 / 複2—0 2) 慶大
千葉大 3 (単2—1 1 / 複1—1 2) 杉野女
学芸大 4 (単2—1 1 / 複2—0 1) 明学大
慶大 3 (単1—1 1 / 複2—0 1) 共立女

☒第16回関東高校選手権大会

（6月6、7日・水戸市）

【男子】 ▼一回戦 石橋（栃木）2—0成田農（千葉）、湘南（定＝神奈川）2—0小松原（埼玉）、都中野工（東京）2—1甲府商（山梨）、木更津（千葉）2—1巨摩（　）、作新（栃木）2—1浦和西（埼玉）、東農大第二（群馬）2—0谷田部（茨城）、日大鶴ヶ丘（東京）2—1関学六浦（神奈川）、真岡工（栃木）2—0春日部（埼玉）、前橋商（群馬）2—1日川（山梨）、堀越（東京）2—0千葉市立（千葉）、平塚商（神奈川）2—0新島学（群馬）、大宮西（埼玉）2—0一商（山梨）、桐生（群馬）2—0京葉（千葉）、日大（神奈川）2—0栃木（栃木）

▼二回戦 桐生市商（群馬）2—0石橋、湘南（定）2—0都中野工、作新学2—0木更津、日大鶴ヶ丘2—0東農大第二、真岡工2—0前橋商、平塚商2—0堀越、大宮西2—0桐生、聖学院（東京）2—1日大

▼準々決勝

桐生市商 2—0 湘南（定）
日大鶴ヶ丘 2—1 作新学院
真岡工業 2—1 平塚商事
聖学院 2—0 大宮西高

▼準決勝

桐生市商 2—1 日大鶴ヶ丘
○野本大川 2 (1515—9 5) 0 帆刈坪井
勝田 0 (1216—1518) 2 市村○
○小林 2 (1515—611) 0 関谷
真岡工業 2—1 聖学院高
榎戸羽石 1 (1015—1512) 2 日村○遠藤
○館野 2 (1515—1510 / 1715—415) 1 永吉
○細島 2 (1515—540) 0 森下

▼決勝

桐生市商 2—0 真岡工高
○野本大川 2 (1515—711) 0 榎戸羽石
○小林 2 (1515—46) 0 館野

【女子】 ▼一回戦 上溝（神）2—1佐倉東（千）、宇都宮女（栃）2—1トキワ松（東）、下館二（茨）2—0浦和西（埼）

▼二回戦 真岡女（栃）2—0上溝、太田二（茨）2—0甲府湯田（山）、桐朋女（東）2—0高崎市女（群）、川口女（埼）2—1小瀬（茨）、石岡二（茨）2—0湘南（定＝神）、桐生市商（群）2—0小松原女（埼）、十文字（東）2—0宇都宮中央女（栃）、昭和学（千）2—1山梨英和（山）、平塚商（神）2—0宇都宮女、京葉（千）2—0鉾田二（茨）、甲府二（山）2—0桐生女（群）、熊谷女（埼）2—1足利女（栃）、捜真女（神）2—0都三商（東）、宇都宮女商（栃）2—0結城二（茨）、木更津東（千）2—1甲府商（山）、下館二（茨）2—1前橋市女（群）

▼三回戦 真岡女2—0太田二、川口女2—1桐朋女、石岡二2—0桐生市商、昭和学2—1十文字、平塚商2—1京葉、甲府二2—0熊谷女、捜真女2—0宇都宮女商、下館二2—1木更津東

▼準々決勝

真岡女高 2—0 川口女高
昭和学院 2—0 石岡二高
甲府二高 2—0 平塚商高
捜真女高 2—0 下館二高

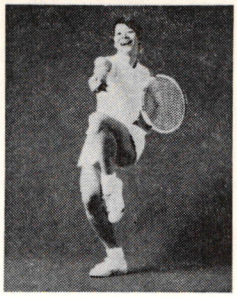
▼準決勝

真岡女高 2—0 昭和学院
○池田大貫 2 (1515—41) 0 中村深谷
○小林 2 (1112—210) 0 伊藤
甲府二高 2—0 捜真女高
○望月井上 2 (1515—29) 0 皆川香野
○入倉 2 (1111—3—711—5) 1 清水

▼決勝

真岡女高 2—0 甲府二高
○大貫池田 2 (1515—511) 0 望月井上
○藤井 2 (1111—200) 0 入倉

＜表紙＞ 高橋みち子〔たかはしみちこ〕「ワールド・ダンサーズ」



○…中学一年生の時にクラシックバレーを始める。

踊りの面白さに憑かれて、二年生になるとすぐ、東裕作バレー団に入門した。

当時、千葉県市川市の中学校に通っていたが、授業が終わるとその足で東京・新橋のレッスン場通いが始まった。

●…二年たって安藤ユニーク・バレー団に。ここでモダン・ジャズを知り、クラシックから転向する。

さすがに基礎ができているだけあってメキメキと上達、その間にテレビなどの仕事（アルバイト）をおぼえた。

○…二年前の一九六八年にスタジオNO1ダンサーズに入る。

NO1ダンサーズのほとんどが、こうした基礎を勉強しているだけに、粒よりなのであろうが、ミチコもその例に洩れない。適当に茶目っ気があり、チームメートの中でも若いだけにみんなから可愛がられている。仲々の人気ものである。

しかし、いったんステージに立つとピリッとしているところはやはりプロの厳しさを身をもって知っているということか。

●…仕事の合間には、好きな映画を見る程度、これといった趣味はないが「お酒も好きです。とく飲みます」とは本人の弁。

踊り手になって十年。「まだまだ勉強を…」と、意欲的な昨今である。163㌢49㌔、寸法は上から84・60・84（衣裳提供カワサキ・ラケット）

全国高校大会特集は7月20日発行

次号、第11号は、インターハイ（全国高校選手権）特集号、発行は七月二十日です。

今年のインターハイは七月二十七日から名古屋市で開かれます。開幕を前に、男女各出場チーム監督の決意と抱負、団体戦の組み合わせを予想。先輩からの思い出や激励のことば、歴代優勝の一覧表など、盛りだくさんの内容です。

表紙も、これに合わせ、名古屋城を望む会場をバックに、高校選手に登場してもらいます。

企画ものは、第10号で掲載できなかった「続々登場する学生界の大型新人」、連載第2回となる「私の指導法・中学校の場合」それに、日本協会指導委員長・伊藤基記先生による「家庭婦人のための教室」が登場します。

関連して小山市協会が手がけ好評を拍している〝ママさん教室〟の実例を紹介します。家庭婦人のスポーツ熱はこの二、三年、急上昇しておりますが、ママさんに最適のバドミントンは、まだ一部にしか普及していません。これを機会に、バレーボールに負けない〝ママさんバドミントン〟が普及するよう、との願いをこめて、二つのよみものをお贈りするわけです。

ご期待下さい。

次号予告

編集後記

☆…発行日が予定より遅れてきたので、本号は「六、七月合併号」とした。ただし、年間12回発行の原則は、あくまで守るため、別記「次号予告」にあるように、追いかけて夏季特別号が、インターハイを特集して発刊されます。

手弁当、仕事の余暇での編集発行だが、とにかく遅れては何千という愛読者にあいすまぬしだい。紙上から、おわびいたします。

★…地方からの話題、ニュース、愛読者からの投書なども、しだいにふえてきた。うれしいことだ。しかし、いっそうの充実をはかるため、さきごろ日本協会から、各都道府県協会あてに、協力を求める依頼状を送付してもらった。

この雑誌の一番大きな目的は全国バドミントン愛好者を、ひとつのキズナで結ぶことにある。そのためには、全国的なニュースと話題の発掘が必要。本誌からもあらためて、全国の協会各位、読者の方々に、お願いするしだい。

☆…そろそろ創刊一周年。記念のための特集内容をどうするか、いま首をひねっている最中です。

さらに、二年目からの連載や企画はどうすべきか。技術講座を中心に案をねっています。これまでの形式を改め、中、高、大学ばかりでなく、勤めのかたわらに、プレーを楽しむ人々、家庭婦人…など、文字どおりすべての人々に役立つよう、キメこまかなものを、というわけ。

ニュースが多くなれば、常時四十ページ建てにすることも検討する予定。

★…もう一つ。表紙写真も現在のモデル・シリーズがあと一回で終了するので、その後はベテラン、ホープ、新鋭など、現役選手を多角的に起用していくつもりです。

ほほえむと
瞳のなかのレモン水（薫）

【バドミントン界】 第10号
昭和45年5月25日 印刷
昭和45年6月1日 発行
編集兼発行人 川 端 昇 市
発行所 東京都渋谷区神南一の一の一 岸記念体育会館内 日本バドミントン協会
電話 四六七・三一一一（内線）二五一
四六七・七〇九五（直通）
郵便番号・一五〇
振替口座・東京三二一九三
印刷所 東京都江東区永代一の五の二 有限会社 和田印刷所
定価 一部 百円

ユ杯プロ、ポスターをさしあげます

昨年六月、ユーバー杯戦で使われたポスターと、大会プログラムを、ご希望の方に無料でさしあげます。

このポスターは本誌「バドミントン界」の表紙を担当されている松井亮磨、小浜正道両氏の共同制作になるもので、地の色がグリーンと赤の二種類。モデルは、いま売り出し中のフレッシュ・コンビ、相沢マチ子、竹中悦子の両選手。

大会当時は、都内各所やプレイガイドで、入場前売り券は買わないのに〝おお、モウレツ〟のポスターだけは欲しいと、引っぱりダコになった評判のものです。

また、プログラムも、インターゾーン出場全チームの顔写真や短い略歴入り、ユ杯の由来などを豊富に盛り込んだもので、これ一冊あれば、かなりのバドミントン通になれること受け合いです。

いずれも、在庫に限りがありますので、お早めに申し込んで下さい。直接、大会を観戦できなかった方々にとっては、いい記念となるでしょう。なお、送料として、ポスターは一部35円、プログラムは一部55円をいただきます。（切手でお送り下さい）

編集部からのお願い 皆さまからのお便り、質問を歓迎します。内容は特に制限しませんが、技術、練習、ルールなどに関するもの場合は、しかるべき先生方にお答えをいただく関係で多少、時間がかかることもありますので、ご承知おき下さい。

協会や本誌に対する注文、ご意見、みなさんの地域でのニュースや話題、新聞記事などの切り抜き（この場合は日付けを忘れないで下さい）、ご自分の経験話、あるいは読者同士の交換（例、ペンフレンドを求む）や第一線選手に対するお便りや質問――なんでもけっこうです。カット類の投稿は特に歓迎します。カット採用の分には薄謝をお送りします。

◉投書、投稿類に住所氏名をはっきりお書き下さい。紙上匿名はかまいません（そのむね、断り書きをつけて下さい）が、こちらからご連絡もできかねるので、今後は受付けないこともあります。

◉愛読者の中で、住所を変更される方が、最近かなりあります。お早めに編集部までご連絡のほどを。

◉本誌ならびに日本バドミントン協会の住居表示が変更になっています。よろしく。

▼新住所＝東京都渋谷区神南一の一の一、岸記念体育館内

日本バドミントン協会検定合格ネット・メーカー

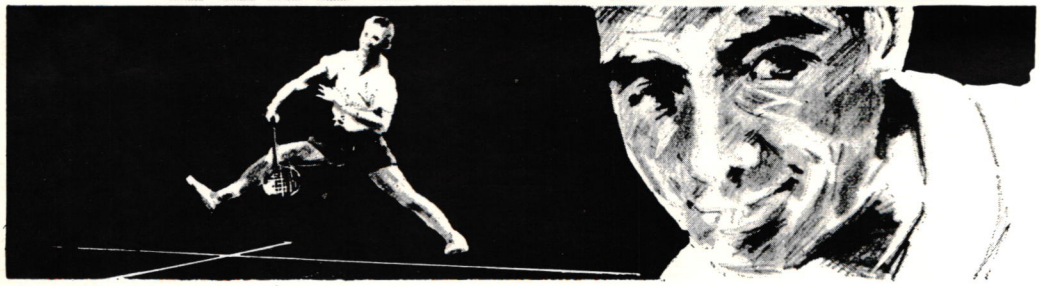
松本製網株式会社	大阪府八尾市福万寺町4-72	TEL 0729 (2) 3217
	◎ 20／12　倉敷ビニロン（MATVMOTO）	
鐘屋産業株式会社	東京都文京区本郷3-17-2	TEL 03 (811) 3773
	◎ ナイロン　A級　◎ 綿　B級	
（株）寺西喜商店	大阪府八尾市福万寺町4-31	TEL 0729 (2) 3210
	◎ バドミントン・ネット　C検定	
（株）ジイティヤング	本社　大阪市南区東平野町2-25	
	支社　東京都墨田区本所1-36-2	TEL 03 (623) 7155
	◎ 20番手　12本クレモナビニロンテトロン引紐	
	◎ 20番手　12本綿　テトロン引紐	
	◎ 20番手　12本綿　クレモナロープ引紐	
ミセキネット製作所	埼玉県北葛飾郡幸手町中1-7-4	TEL 04804 (2) 0379
	◎ ミセキ　VA　◎ ミセキ　A	

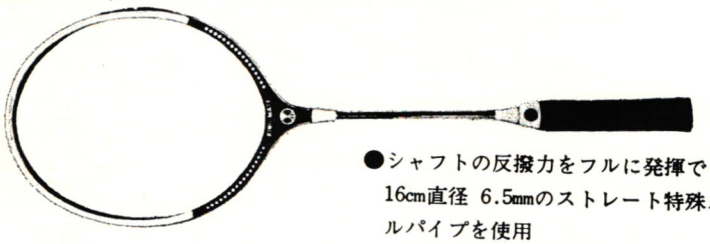
反撥力 抜群！

ストレート特殊スチールパイプで
シャフトの効果が倍増されました
あなたのプレイが注目の的です

新製品 No.3500 キングメイト

KING MATE





●シャフトの反撥力をフルに発揮できる全長16cm直径 6.5mmのストレート特殊スチールパイプを使用

●小銀杏構造と輸入木材を基にした革命的な特殊合板でバランス、耐久力は抜群

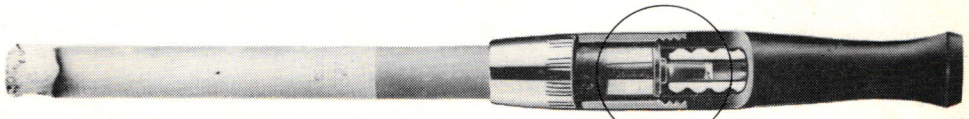
サンパタ

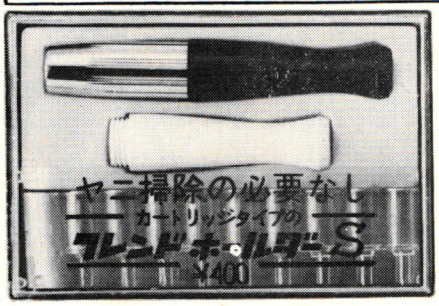
株式会社 諸江製作所 東京都渋谷区笹塚2丁目46番8号
電話(377) 4401(代表)

月刊「バドミントン界」
第十号
昭和四十四年十二月二十三日第三種郵便物認可
昭和四十五年七月一日発行(毎月一回一日発行)
発行所
東京都渋谷区神南町二五
岸記念体育会館内
日本バドミントン協会
定価百円

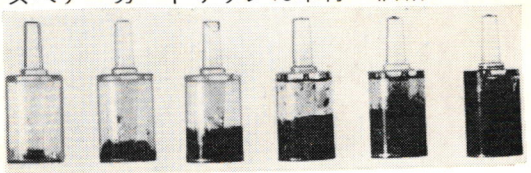


ヤニ掃除の必要がなくなりました――《有害タール》を約90%もとるパイプです





カートリッジタイプの
フレンドホルダーS
スペアーカートリッジ10本付・価格=¥400



PAT. NO. 800395/PAT. P. NO. 42. 44127·43. 22729

フレンドホルダーSS　フレンドホルダーSL　フレンドホルダーS ブライヤー 本象牙

たばこ店・デパート・薬局・喫煙具店・駅主要売店にて発売中

発売元
テラサキ株式会社
東京都江戸川区興宮町43